

高等専門学校機関別認証評価

自己評価書

令和元年6月

国際高等専門学校

- ・ 自己点検・評価結果欄の各項目のチェック欄で「・・・していない」等にチェック（■）した場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄に、その理由等を記述すること。
- ・ （該当する選択肢にチェック■する。）と記載のある項目は、該当する箇所のみチェックを入れること。選択肢全てにチェックを入れる必要はない。
- ・ 自己点検・評価の根拠資料・説明等欄の記号は次のとおり。
 - ◇：明示している根拠資料については、該当資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。資料は、該当箇所がわかるように（ページや行の明示、下線や囲み線を引くなど）して、まとめて自己評価書「根拠資料編」として作成すること。資料を、ウェブサイト等で公表している場合には、ウェブサイト公表資料と付した上で、該当資料名、資料番号を記入し、そのリンク先を欄中に貼付すること。この場合は、自己評価書「根拠資料編」にリンクを貼ったウェブサイト公表資料の一覧を添付すること。
 - ◆：資料等を基に自己点検・評価の項目に係る状況を記述すること。（取組や活動の内容等の客観的事実について具体的に記述し、その状況についての分析結果をその結果を導いた理由とともに記述。）記述は、できるだけ簡潔にし、分量は、200字以下を目安とすること。なお、「・・・場合は、」とあるものについては、該当する場合のみ記述すること。また、根拠資料の資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。
- ・ 関係法令の略は次のとおり。

(法)学校教育法、(施)学校教育法施行規則、(設)高等専門学校設置基準

国際高等専門学校

I 高等専門学校の現況及び特徴

(1) 現況	
1. 高等専門学校名	国際高等専門学校
2. 所在地	石川県金沢市久安2丁目270番地
3. 学科等の構成	準学士課程：国際理工学科、電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科 専攻科課程：なし
4. 認証評価以外の第三者評価等の状況	特例適用専攻科（専攻名：なし） J A B E E 認定プログラム（専攻名：なし） その他（なし）
5. 学生数及び教員数 （評価実施年度の5月1日現在）	学生数：293人 教員数：専任教員65人 助手数：0人
(2) 特徴	
<p>1. 国際高等専門学校（旧称 金沢工業高等専門学校）の概要</p> <p>金沢工業高等専門学校は実践的技術者の養成を目指し、昭和37年高等専門学校制度のスタートと同時に電気工学科3学級で開校し、昭和38年に機械工学科2学級を設置した。その後、平成15年に電気工学科を電気情報工学科に名称変更、同年に国際コミュニケーション工学科を設置した。さらに平成21年に電気情報工学科を電気電子工学科に、国際コミュニケーション情報工学科をグローバル情報工学科に名称変更した。また、平成27年にグローバル情報工学科の学生募集を停止してグローバル情報学科を設置した。</p> <p>平成30年に校名を金沢工業高等専門学校（以下、金沢高専と記す）から国際高等専門学校（以下、本校と記す）に変更した。校名変更と同時に電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科・グローバル情報工学科の各学科を1学科に統合した国際理工学科を設置した。</p> <p>国際理工学科の1,2年生は、ボーディングスクールの考えを取り入れた白山麓キャンパスで学ぶ。3年生は、海外提携校の一つであるニュージーランド国立オタゴポリテクニクに全員が約1年間留学し、国際的な観点からものづくりなどの理工学を学ぶ。4,5年生では金沢キャンパスで金沢工業大学との共創教育を連携して学修する。</p> <p>2. 本校教育の特色</p> <p>金沢高専の教育の特色は、実践的技術者の養成としての「ものづくり教育」、国際化に対応するための「工学・英語協同学習」及び自立・自律した人の育成を目指す「キャリア教育」である。</p> <p>「ものづくり教育」では、学生の創造性を引き出す創造実験・創造設計を支柱にエンジニアリングデザイン教育を展開してきた。平成22年には世界的工学教育組織のCDIOイニシアチブに加盟して、教科内容の充実に努めてきた。</p> <p>国際化への対応として、昭和57年から提携校のシンガポール理工学院に、毎年4年生全員が国際交流型の修学旅行で訪問している。平成6年からは、2年生の希望者30～40名に対して米国のセントマイケルズ大学で語学研修を行ってきた。平成16年には単位互換を可能にした海外留学制度を確立し、3年生の希望者12～20名が毎年ニュージーランドのオタゴポリテクニクへ1年間留学している。この1年間の留学プログラムでは、数学・物理・工学プロジェクトなどを英語で学習することで、理工学の知識・技術と英語の能力が向上する。平成20年には技術現場の国際化への対応の必要性から「工学・英語協同学習」の取り組みを開始した。「工学・英語協同学習」の取り組みの一つとして、専門科目のいくつかは日本人教員と海外出身教員が共同で授業運営を行ってきた。</p> <p>「キャリア教育」ではキャリア発達に応じた本校独自のキャリアノートを開発し、キャリアデザイン教育に使用してきている。</p>	

国際高等専門学校

平成 26 年には、「個を輝かせ、他と協働し、新たな価値を創出するグローバルイノベーターの育成」を教育目標に設定し、令和 2 年度を完成年度とする教育改革の指針「2020Vision」を策定した。本校は、社会が大きく変化する中において、新たな価値を創出し、国際的に活躍できるグローバルイノベーターの輩出が急務と考え、平成 30 年に Society5.0 が目指す人材育成内容を包含した高等専門学校の教育として、国際理工学科を創設した。その特色は、学年進行につれて教育環境を変化させ、修学レベルに対応した STEM 教育や地方創生に寄与する PBL 型のエンジニアデザイン教育を行う実践型のカリキュラムにある。

1,2 年次では、英語で科学、技術、工学、数学を総合的に学ぶ STEM 教育やエンジニアリングデザインⅠ、Ⅱを実施し、基礎的な理工学概念や思考力を身につけることを目指している。STEM 科目の理解を容易にするために、ブリッジングリッシュを 1 年次前学期に配置している。また、課外プロジェクト活動では、白山の豊かな自然の中での活動や、地域社会の行事への参加を通して学生の人間的成長を促す工夫をしている。

3 年次は、ニュージーランドのオタゴポテックへ全員が留学し、ニュージーランドやその他の国・地域から集まる学生と共に理工学の基礎を学ぶ。さらに、エンジニアリングデザインⅢでは、現地企業の課題に取り組むプロジェクト活動を通して、ものづくり技術や国際的なマインドも身につける。

4,5 年次は、併設される金沢工業大学と 4,5 年次のカリキュラムを連携し、工学・専門・IT 技術の基礎を重視した授業を展開すると同時に、CDIO のプロセスを深化させ、社会実装も視野に入れた教育を実践する。

本校は先進的な工学教育を実施している金沢工業大学の学部・大学院との一貫教育を実現させることで、これからの社会で活躍できるリーダーを育成する新たな高等教育システムの構築を目指している。

令和元年度からの新規な取り組みとして、4,5 年生に対して、金沢工業大学との共創教育を目的としたクラスター研究室の設置や、さらになる連携強化を目的とした大学兼任教員による数学やマーケティングの授業を先行して実施している。

【2,025 字】

II 目的

1. 目的と使命

本校は、学園の建学綱領に定める建学の精神に則り、教育基本法、学校教育法及び私立学校法に従い、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、その目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを使命とする。

2. 教育理念

(1) 学園の建学綱領

本学園は、学生、理事、教職員が三位一体となり、学園共同体の理想とする工学アカデミアを形成し、建学綱領の具現化を目的とする卓越した教育と研究を実践し社会に貢献する。

【三大建学旗標】

人間形成：我が国の文化を探求し、高い道徳心と広い国際感覚を有する創造的で個性豊かな技術者を育成する。

技術革新：我が国の技術革新に寄与すると共に、将来の科学技術振興に柔軟に対応する技術者を育成する。

産学協同：我が国の産業界が求めるテーマを積極的に追究し、広く開かれた学園として地域社会に貢献する。

(学校法人金沢工業大学 建学綱領)

3. 教育目標

本校は、教育目標を「グローバルイノベーターの育成」とし、学生・理事・教職員に対しては学園共同体が共有する価値に基づく信条である「KIT IDEALS」を常に意識、尊重することを求め、自身及び学園共同体の向上発展を目指している。

本校が描くグローバルイノベーターは、最新の理工学知識や洞察力を持つだけでなく、創造的な解決策を用いて、新しい価値を生み出す機会を見つけることができる人である。さらに、様々な分野の専門家たちと効果的にコラボレーションすることができ、文化や価値観の多様性を尊重し、より良い世界の実現に向け、変革の波を起こすスキルを持つプロフェッショナルでもある。

このような能力の育成を目的に、以下の教育を推進する。

- ①社会に貢献するリーダーとしての人間力を形成する教育
- ②グローバルに活躍できるコミュニケーション能力を育成する教育
- ③イノベーターに相応しい卓越した科学技術力を習得する教育

4. 各学科の目的

(1) 国際理工学科（平成 30 年度設置）

国際理工学科は、グローバルに活躍するイノベーターの素養を身につけた創造的・実践的技術者の養成を目的とする。本学科は、文化や価値観の多様性を理解し、英語でのコミュニケーションができ、エンジニアリングデザイン等を通して広くものづくりのプロセスを身につけ、培った専門知識・技術を生かし、様々な分野の専門家たちと協働し新たな価値を創出できる技術者を養成する。

(2) 電気電子工学科（平成 30 年度より学生募集停止）

電気電子工学科は、電気・電子工学及び情報技術分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とする。

(3) 機械工学科（平成 30 年度より学生募集停止）

機械工学科は、機械工学分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とする。

(4) グローバル情報学科（平成 30 年度より学生募集停止）

国際高等専門学校

グローバル情報学科は、情報技術に関する専門能力と経営の知識を有し、グローバル社会においてイノベーション創出に貢献できる技術者の養成を目的とする。

(5) グローバル情報工学科（平成 27 年度より学生募集停止）

グローバル情報工学科は、コンピュータとソフトウェア開発の知識を修得し、高度情報化社会の基礎となる情報技術と、実践的な英語コミュニケーション力を身につけた技術者の養成を目的とする。

Ⅲ 基準ごとの自己評価等

基準 1 教育の内部質保証システム

<p>評価の視点</p> <p>【重点評価項目】</p> <p>1-1 教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第 109 条第 1 項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み（以下「内部質保証システム」という。）が整備され、機能していること。</p>	
<p>【重点評価項目】</p> <p>観点 1-1-① 教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 教育の活動を中心とした学校の教育研究活動の総合的な状況についての自己点検・評価の実施方針、実施体制、実施項目を分析するための観点であり、重点評価項目として位置付けている。（改善への取組については 1-1-④ で分析する。）</p> <p>○ 定期的に行うということは、7 年以内ごとに実施する大学改革支援・学位授与機構（以下、「機構」という。）の機関別認証評価に対応した自己点検・評価以外に、計画的にモニタリング*や自己点検・評価を実施していることについて分析すること。</p> <p>※ 「モニタリング」として、教育プログラムの実施者がプログラムの現状について、定量的及び定性的なデータや情報を定期的かつ体系的に把握・追跡し、継続的に情報共有を行う作業をいう。</p> <p>○ 実施方針とは、趣旨、実施時期、実施方法、評価結果の外部検証等が定められている学校内の規定を想定している。</p> <p>○ 実施体制には、委員会や担当部署のほか、自己点検・評価における責任の所在を明記していること。なお、実施体制の「組織図」等があれば提示すること。</p> <p>○ 自己点検・評価の基準・項目には、機構の高等専門学校評価基準を活用することや、必要に応じて独自の評価の項目を設定している場合も想定される。</p> <p>○ 実施体制、評価の基準・項目等は、実施方針の中で一体的に策定している場合も想定される。</p>	
関係法令	(法)第 109 条 (施)第 166 条 (設)第 2 条
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針を定めているか。</p> <p>■定めている</p> <p>□定めていない</p>	<p>◇実施の方針が明示されている規程等</p> <p>資料 1-1-1-(1)-01</p> <p>「国際高等専門学校における自己点検・評価に関する実施方針」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/evaluation/selfcheck/</p> <p>資料 1-1-1-(1)-02</p> <p>「国際高等専門学校学則 第 1 条」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/regulations/</p>

<p>(2) (1)の方針において、自己点検・評価の実施体制（委員会等）を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>◇実施体制等がわかる資料（組織構成図、関連規程等）</p> <p>資料 1-1-1-(2)-01 「自己点検・評価に関する法人組織構成図」</p> <p>資料 1-1-1-(2)-02 「自己点検・評価に関する高専組織構成図」</p> <p>資料 1-1-1-(2)-03 「学校法人金沢工業大学管理規則 第4条」</p> <p>資料 1-1-1-(2)-04 「学校法人金沢工業大学十年委員会規程」</p> <p>資料 1-1-1-(2)-05 「ICT教育評価委員会規程」</p> <p>資料 1-1-1-(2)-06 「国際高等専門学校学務会議規程」</p> <p>資料 1-1-1-(2)-07 「事務分掌規程 第2条・第4条」</p>
<p>(3) (1)の方針において、若しくは同方針に基づいて、自己点検・評価の基準・項目等を設定しているか。</p> <p>■設定している □設定していない</p>	<p>◇自己点検・評価の基準・項目等がわかる資料（関連規程等）</p> <p>（再掲）資料 1-1-1-(1)-01 「国際高等専門学校における自己点検・評価に関する実施方針」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/evaluation/selfcheck/</p> <p>資料 1-1-1-(3)-01 「自己点検・評価に関する基準・項目」</p>
<p>【重点評価項目】</p> <p>観点 1-1-② 内部質保証システムに基づき、根拠となるデータや資料に基づいて自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 根拠となるデータや資料等とは、教育の状況について自己点検・評価を行うに当たり必要な教育活動に関する基礎的な資料のことで、本評価書の右欄に明示された各種資料を想定している。自己点検・評価に活用できるように体系的に整理しているかを分析すること。より体系的に実施するため、データブック等の策定や、IR（インスティテューショナル・リサーチ）活動として実施している場合も考えられる。</p> <p>○ 定期的に行うということは、7年以内ごとに実施する大学改革支援・学位授与機構（以下、「機構」という。）の機関別認証評価に対応した自己点検・評価以外に、計画的にモニタリング*や自己点検・評価を実施していることについて分析すること。</p> <p>※ 「モニタリング」として、教育プログラムの実施者がプログラムの現状について、定量的及び定性的なデータや</p>	

<p>情報を定期的かつ体系的に把握・追跡し、継続的に情報共有を行う作業をいう。(1-1-①の留意点の再掲。)</p> <p>○ 設定した自己点検・評価の基準・項目に基づいて、点検(分析)・評価されていること。(1-1-①(3)と関連。)</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第109条 (施)第166条 (設)第2条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 根拠となるデータや資料等を定期的に収集・蓄積しているか。</p> <p>■収集・蓄積している</p> <p>□収集・蓄積していない</p>	<p>◇収集・蓄積状況がわかる資料</p> <p>資料 1-1-2-(1)-01 「保存資料がわかるリスト」</p> <p>資料 1-1-2-(1)-02 「授業・総合アンケート調査結果報告書」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/evaluation/fdequete/</p> <p>資料 1-1-2-(1)-03 「教育改善への取組と今年度の目標およびその成果」 毎年4月に各教員が作成し、校長に提出している。</p> <p>資料 1-1-2-(1)-04 「授業エビデンス提出の案内」</p> <p>資料 1-1-2-(1)-05 「HPの教育情報の公表」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/education_information/</p> <p>資料 1-1-2-(1)-06 「HPの教育情報の公表」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/education_information/</p> <p>◇担当組織、責任体制がわかる資料 (再掲) 資料 1-1-1-(3)-01 「自己点検・評価に関する基準・項目」</p>
<p>(2) 自己点検・評価を定期的実施しているか。</p> <p>■実施している</p> <p>□実施していない</p>	<p>◇自己点検・評価報告書等、実施状況がわかる資料(何年ごとに実施しているかがわかる資料も含む。)</p> <p>◆何年ごとに実施しているかを明確にしつつ、現在の実施頻度が適切かどうか、データや資料を活用して行われているかについて、資料を基に記述する。</p> <p>大学改革支援・学位授与機構による機関別認証評価の受審年とその3～4年後毎に自己評価書を作成している。受審の3～4年後における自己点検・評価は、機関別認証評価の意見を踏まえた改善が行われているかを確認しており、作成頻度は適切であると考え。自己評価書は機関別</p>

	<p>認証評価等を参考に作成することとしており、データや資料の利用についても適切であると判断する。</p> <p>資料 1-1-2-(2)-01 「平成 26 年度自己点検・評価報告書」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2018/03/h26.pdf</p> <p>資料 1-1-2-(2)-02 「自己点検・評価報告書公表状況」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/evaluation/selfcheckreport/</p>
<p>(3) (2)の結果を公表しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 公表している</p> <p><input type="checkbox"/> 公表していない</p>	<p>◇公表状況がわかる資料(ウェブサイトのアドレスの明示でも可。)</p> <p>(再掲) 資料 1-1-2-(2)-01 「平成 26 年度自己点検・評価報告書」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2018/03/h26.pdf</p>
<p>【重点評価項目】</p> <p>観点 1-1-③ 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が自己点検・評価に反映されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の構成員及び学外関係者の意見を聴取する方法、内容、実施状況等についての分析を含め、聴取した意見がどのような形で教育の状況に関する自己点検・評価に反映されているか分析すること。 ○ 特に学外関係者からの意見聴取は、準備等に時間がかかることが想定されるため、計画的な実施が望まれる。 ○ 「第三者評価」とは、評価対象機関とは独立した第三者組織によって選定された評価者・評価項目等によって行われる評価を指す。 	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 教員</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 職員</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 在学生</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 卒業（修了）時の学生</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 保護者</p>	<p>◇各意見聴取の実施状況がわかる資料（実施方法、回数、意見内容の例、アンケート結果集計表等。）</p> <p>資料 1-1-3-(1)-01 「意見聴取実施状況表」</p> <p>資料 1-1-3-(1)-02 「教員・職員へのアンケートの結果（平成 29 年実施）」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2018/06/h29_2.pdf</p> <p>資料 1-1-3-(1)-03</p>

<p>■就職・進学先関係者</p>	<p>「在校生へのアンケートの結果（平成29年実施）」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2018/06/h29_1.pdf 資料 1-1-3-(1)-04 「5年生へのアンケートの結果（平成30年度）」 資料 1-1-3-(1)-05 「一定年数後の卒業生へのアンケートの結果(平成28年実施)」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2018/03/h28_2.pdf 資料 1-1-3-(1)-06 「就職先企業へのアンケートの結果（平成28年実施）」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2018/03/h28_2.pdf 資料 1-1-3-(1)-07 「個別面談における保護者の意見（抜粋）」 資料 1-1-3-(1)-08 「訪問先企業からの意見がわかる資料」</p> <p>◇自己点検・評価結果報告書等の該当箇所 （再掲）資料 1-1-2-(2)-01 「平成26年度自己点検・評価報告書」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2018/03/h26.pdf 資料 1-1-3-(1)-09 「自己点検・評価に意見を反映させていることがわかる資料」</p>
<p>(2) 自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p>【在学生の意見聴取】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■学習環境に関する評価 ■学生による授業評価 ■学生による教育・学習の達成度に関する評価 （進級時等、卒業（修了）前の評価） ■学生による満足度評価 （進級時等、卒業（修了）前の評価） □その他 <p>【卒業（修了）時の意見聴取】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関 	<p>◇各評価結果等を踏まえて自己点検・評価が行われていることを示す報告書等の該当箇所</p> <p>【在学生】</p> <p>資料 1-1-3-(2)-01 「授業・教育に関する学生の意見を踏まえた自己点検・評価がわかる資料」</p> <p>資料 1-1-3-(2)-02 「学生の意見による環境改善の取り組みがわかる資料」</p> <p>【在学生・卒業時・卒業後】</p> <p>（再掲）資料 1-1-3-(1)-09 「自己点検・評価に意見を反映させていることがわかる資料」</p> <p>【外部評価】</p>

<p>する評価</p> <p>■卒業（修了）時の学生による満足度評価</p> <p>□その他</p> <p>【卒業（修了）後の意見聴取】</p> <p>■卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価</p> <p>■卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価</p> <p>□その他</p> <p>【外部評価】</p> <p>■外部有識者の検証</p> <p>■教育活動に関する第三者評価 (機関別認証評価、JABEE等。)</p> <p>■設置計画履行状況調査</p> <p>□その他</p>	<p>資料 1-1-3-(2)-03</p> <p>「十年委員会での応答がわかる資料」</p> <p>資料 1-1-3-(2)-04</p> <p>「平成 24 年度金沢高専認証評価結果」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2018/03/kanazawa_k201303.pdf</p> <p>ここでは改善の指摘を受けていない。</p> <p>資料 1-1-3-(2)-05</p> <p>「設置計画履行状況等調査の結果について（平成 30 年度）」</p> <p>資料 1-1-3-(2)-06</p> <p>「本年度第 4 回学校見学会を開催」</p> <p>設置計画履行状況等調査の結果を踏まえて、入学者数の増加を目指し、募集イベントを充実させた。詳しくは観点 6-1-③-(4)を参照。</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、当該評価の内容を記述するとともに、上記◇と同様に該当箇所を明示すること。</p>
<p>【重点評価項目】</p> <p>観点 1-1-④ 自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような組織としての体制が整備され、機能しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 改善・向上のための組織体制には、委員会や担当部署のほか、改善・向上の取組のための責任の所在が明確になっていること。組織図等があれば提示すること。</p> <p>1-1-①-(2)と同じ組織体制を充てる場合であっても、自己点検・評価の実施と改善・向上の取組の両方の役割をそれぞれ明確に規程等で整理できているかを分析すること。</p> <p>○ 第三者評価等とは、機構が実施する機関別認証評価や、JABEE（日本技術者教育認定機構）によるJABEE認定プログラムの認定、機構が実施する特例適用専攻科の認定等のほか、第三者評価ではない、自己点検・評価の外部有識者による検証を含み、外部者が検証・評価した結果等の全てを想定しており、そこで指摘された改善事項等への対応を事例として想定している。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような体制が整備されているか。</p> <p>■整備されている</p>	<p>◇実施体制がわかる資料（組織相互関連図、関連規程、議事要旨、活動記録等）</p> <p>(再掲) 資料 1-1-1-(2)-02</p>

<p><input type="checkbox"/>整備されていない</p>	<p>「自己点検・評価に関する高専組織構成図」 (再掲) 資料 1-1-1-(1)-01 「国際高等専門学校における自己点検・評価に関する実施方針」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/evaluation/selfcheck/</p>
<p>(2) 前回の機関別認証評価における評価結果について、「改善を要する点」として指摘された事項への対応をしているか。 <input type="checkbox"/>対応している <input type="checkbox"/>対応していない <input checked="" type="checkbox"/>指摘を受けていない</p>	<p>◇対応状況がわかる資料 (再掲) 資料 1-1-3-(2)-04 「平成 24 年度金沢高専認証評価結果」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2018/03/kanazawa_k201303.pdf</p>
<p>(3) (2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 <input checked="" type="checkbox"/>改善に向けた取組を行っている <input type="checkbox"/>改善に向けた取組を行っていない</p>	<p>◇自己点検・評価結果報告書や第三者評価等の該当箇所 資料 1-1-4-(3)-01 「自己点検・評価報告書での改善指摘箇所と改善に向けた取組」 ◇評価結果を受けた改善の取組がわかる資料 資料 1-1-4-(3)-02 「ICT 公式ウェブサイト」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/ 資料 1-1-4-(3)-03 「平成 29 年度外国人教員による英語での専門科目授業 (TMJG)」 資料 1-1-4-(3)-04 「学習支援計画書書式」 資料 1-1-4-(3)-05 「補習実施要領」 資料 1-1-4-(3)-06 「貸与パソコンの取り扱い」</p>
<p>1-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>評価の視点 1-2 準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業（修了）の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）（以下「三つの方針」という。）が学校の目的を踏まえて定められていること。</p>	

(準学士課程)	
観点 1-2-① 準学士課程の卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。	
<p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ガイドラインとは、下記関係法令に示す平成 28 年 3 月 31 日に決定されたガイドラインのことをいう。 ○ 「卒業の認定に関する方針」(ディプロマ・ポリシー)については、ガイドラインの 3 ページ上段の基本的な考え方や、同 5 ページ下半分の三つのポリシー相互の関係、同 6 ページのディプロマ・ポリシーについて等、ガイドラインの内容を参照の上、適切に定められていることを分析すること。 ○ 教育する立場からみた教えるべき内容ではなく、教育を受ける側(=学習者=学生)の立場に立って「何を身に付け、何ができるようになったか」という学習の成果が明確にわかる、具体的な内容となっていることを分析すること。 ○ 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 1 号の規定により学校の目的を、高等専門学校設置基準第 3 条の規定により学科ごとの目的を、それぞれ定めることが義務付けられており(本評価書のⅡ目的に記載するもの)、それぞれの目的と卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)が、内容的に齟齬がないなど整合性を有していることを分析すること。 ○ 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)の策定の単位は、準学士課程全体で一つのポリシーを定めることや、学科ごとに定めることが考えられるところであり、学校・学科の目的や教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)との整合性を踏まえて、学校ごとに策定単位を明確にすることが求められる。 	
関係法令	(法)第 117 条 (施)第 165 条の 2 (設)第 17 条第 3~6 項、第 17 条の 2、第 17 条の 3、第 18 条、第 19 条、第 20 条 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン(平成 28 年 3 月 31 日中央教育審議会大学分科会大学教育部会)
観点の自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) ガイドライン等を踏まえ、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)を定めているか。(該当する選択肢にチェック■する。 <input type="checkbox"/> 準学士課程全体として定めている <input checked="" type="checkbox"/> 学科ごとに定めている <input type="checkbox"/> その他	◇策定した卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) 資料 1-2-1-(1)-01 「国際理工学科のディプロマ・ポリシー」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/ideals/three_policies/
(2) 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)が、「何ができるようになるか」に力点を置いたものであり、かつ準学士課程全体、各学科の目的(本評価書Ⅱに記載したもの)と整合性を有しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整合性を有している <input type="checkbox"/> 整合性を有していない	資料 1-2-1-(1)-02 「平成 29 年度以前入学生のディプロマ・ポリシー」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2019/04/p13-37.pdf 電気電子工学科・機械工学科・グローバル情報学科・グローバル情報工学科の 4 学科は共通のディプロマ・ポリシーである。
(3) 卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)の	

<p>中で、学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示しているか。</p> <p>■示している □示していない</p>	<p>◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。</p>
<p>観点1-2-2-② 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ガイドラインとは、下記関係法令に示す平成28年3月31日に決定されたガイドラインのことをいう。 ○ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）については、ガイドラインの3ページ上段の基本的な考え方や、同5ページ下半分の三つのポリシー相互の関係、同6ページカリキュラム・ポリシーについて等、ガイドラインの内容を参照の上、適切に定められていることを分析すること。 ○ 特に、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は学校教育法施行規則第165条の2第2項において、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を有して定めることが求められていることから、両ポリシーの内容が整合的であることを分析すること。 ○ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の策定の単位は、準学士課程全体又は学科ごとに定めることが想定されるところであり、学校・学科の目的や卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を踏まえて、学校ごとに策定単位を明確にすることが求められる。（卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と策定単位が一致していることが原則であると想定されるが、各高等専門学校の判断で策定単位を一致させていないことも想定されることから、整合性を分析する際には、形式的に留まらず内容的整合性を分析することが求められる。） ○ （3）の選択肢のうち、「その他」以外のものについては、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に必ず含むものとして想定している。 	
<p>関係法令</p>	<p>(施)第165条の2 (設)第15条、第16条、第17条(第7項)、第17条の2 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン(平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会)</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)を定めているか。(該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p>□準学士課程全体として定めている ■学科ごとに定めている □その他</p>	<p>◇策定した教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)</p> <p>資料1-2-2-(1)-01 「国際理工学科のカリキュラム・ポリシー」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/ideals/three_policies/</p>
<p>(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)は、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)と整合性を有しているか。</p>	<p>資料1-2-2-(1)-02 「平成29年度以前入学生のカリキュラム・ポリシー」</p>

<p>マ・ポリシー)との整合性を有しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>整合性を有している</p> <p><input type="checkbox"/>整合性を有していない</p>	<p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/student_handbook/11-46p.pdf</p> <p>電気電子工学科・機械工学科・グローバル情報学科・グローバル情報工学科の4学科は共通のカリキュラム・ポリシーである。</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。</p>
<p>(3) 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)は、どのような内容を含んでいるか。(該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>どのような教育課程を編成するかを示している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>どのような教育内容・方法を実施するかを示している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>学習成果をどのように評価するかを示している</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>	<p>◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>
<p>観点1-2-③ 準学士課程の入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ ガイドラインとは、下記関係法令に示す平成28年3月31日に決定されたガイドラインのことをいう。</p> <p>○ 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)については、ガイドラインの3ページ上段の基本的な考え方や、同5ページ下半分の三つのポリシー相互の関係、同6ページのアドミッション・ポリシーについて等、ガイドラインの内容を参照の上、適切に定められていることを分析すること。</p> <p>○ 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)の策定の単位は、準学士課程全体で1つのポリシーを定めることが考えられるが、学科ごとに定めることも可能である。</p> <p>○ 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)には、「入学者選抜の基本方針」と「求める学生像(受け入れる学生に求める学習成果を含む。)」の両方を定めているかを分析すること。なお、受け入れる学生に求める学習成果として、「学力の3要素」に沿った成果の内容が明示されていることを分析すること。</p> <p>○ 「学力の3要素」とは、1知識・技能、2思考力・判断力・表現力等の能力、3主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度のことである。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第57条、第118条(施)第165条の2</p> <p>「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン(平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会)</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/>満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する</p>	<p>◇策定した入学者の受入れに関する方針(アドミッショ</p>

<p>方針（アドミッション・ポリシー）を定めているか。 （該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 準学士課程全体として定めている</p> <p><input type="checkbox"/> 学科ごとに定めている</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<p>ン・ポリシー)</p> <p>資料 1-2-3-(1)-01</p> <p>「国際理工学科のアドミッション・ポリシー」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/ideals/three_policies/</p>
<p>(2) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）は、学校の目的や学科の目的（本評価書Ⅱに記載したもの）、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて策定しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目的・方針等を踏まえて策定している</p> <p><input type="checkbox"/> 目的・方針等を踏まえて策定していない</p>	<p>資料 1-2-3-(1)-02</p> <p>「平成 29 年度以前入学生の国際高専の求める人(アドミッション・ポリシー)」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/student_handbook/8-10p.pdf/</p> <p>電気電子工学科・機械工学科・グローバル情報学科・グローバル情報工学科の 4 学科は共通のアドミッション・ポリシーであるが、グローバル情報工学科は平成 27 年度以降、他の 3 学科は平成 30 年度以降の募集を停止している。</p>
<p>(3) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学選抜の基本方針」を明示しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 明示している</p> <p><input type="checkbox"/> 明示していない</p>	<p>◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。</p>
<p>(4) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。）」を明示しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 明示している</p> <p><input type="checkbox"/> 明示していない</p>	
<p>(5) 受入れる学生に求める学習成果には「学力の 3 要素」に係る内容が含まれているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 含まれている</p> <p><input type="checkbox"/> 含まれていない</p>	
<p>（専攻科課程）</p> <p>観点 1-2-2-④ 専攻科課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 観点 1-2-2-①の留意点に準ずるものとする。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法) 第 119 条第 2 項 (施) 第 165 条の 2 (設) 第 17 条第 3~6 項、第 17 条の 2、第 17 条の 3、第 18 条、第 19 条、第 20 条</p> <p>「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成 28 年 3 月 31 日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	

自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) ガイドライン等を踏まえ、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p><input type="checkbox"/>専攻科課程全体として定めている</p> <p><input type="checkbox"/>専攻ごとに定めている</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>	<p>◇策定した修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）がわかる資料</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。</p>
<p>(2) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が、「何ができるようになるか」に力点を置き、専攻科課程全体、各専攻の目的（本評価書Ⅱに記載したもの）と整合性を有しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>整合性を有している</p> <p><input type="checkbox"/>整合性を有していない</p>	
<p>(3) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の中で、学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>示している</p> <p><input type="checkbox"/>示していない</p>	
<p>観点 1-2-⑤ 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 観点 1-2-②の留意点に準ずるものとする。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(施)第 165 条の 2 (設)第 15 条、第 16 条、第 17 条（第 7 項）、第 17 条の 2</p> <p>「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成 28 年 3 月 31 日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input type="checkbox"/>満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/>満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p><input type="checkbox"/>専攻科課程全体として定めている</p> <p><input type="checkbox"/>専攻ごとに定めている</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>	<p>◇策定した教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）がわかる資料</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。</p>
<p>(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を有しているか。</p>	

<p><input type="checkbox"/> マ・ポリシー)との整合性を有しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 整合性を有している</p> <p><input type="checkbox"/> 整合性を有していない</p>	
<p>(3) 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)は、どのような内容を含んでいるか。 (該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p><input type="checkbox"/> どのような教育課程を編成するかを示している</p> <p><input type="checkbox"/> どのような教育内容・方法を実施するかを示している</p> <p><input type="checkbox"/> 学習成果をどのように評価するかを示している</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<p>◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>
<p>観点1-2-⑥ 専攻科課程の入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 観点1-2-③の留意点に準ずるものとする。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第119条第2項(施)第165条の2、第177条</p> <p>「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン(平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会)</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄(該当する□欄をチェック■)</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)を定めているか。 (該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p><input type="checkbox"/> 専攻科課程全体として定めている</p> <p><input type="checkbox"/> 専攻ごとに定めている</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<p>◇策定した入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。</p>
<p>(2) 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)は、学校の目的や専攻科課程の目的(本評価書Ⅱに記載したもの)、修了の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえて策定しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 目的・方針等を踏まえて策定している</p> <p><input type="checkbox"/> 目的・方針等を踏まえて策定していない</p>	

<p>(3) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学者選抜の基本方針」を明示しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 明示している</p> <p><input type="checkbox"/> 明示していない</p>	
<p>(4) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。）」を明示しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 明示している</p> <p><input type="checkbox"/> 明示していない</p>	
<p>(5) 受入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 含まれている</p> <p><input type="checkbox"/> 含まれていない</p>	
<p>1-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>評価の視点</p> <p>1-3 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されていること。</p>	
<p>観点 1-3-① 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ (2)の点検の実施については、改組転換といった教育組織の見直しや教育課程の充実（外国語科目の充実や、実務教育科目の充実等。）により、三つの方針の全体若しくはいずれかの見直しを行っていることについて、分析すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第109条 (施)第166条 (設)第2条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検する体制となっているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> なっている</p> <p><input type="checkbox"/> なっていない</p>	<p>◇点検を行う体制がわかる資料（関連規定等、三つの方針の内容を点検し、必要に応じて見直すことについて定めているもの。）</p> <p>（再掲）資料 1-1-1-(1)-01</p> <p>「国際高等専門学校における自己点検・評価に関する実施方針」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/evaluation/selfcheck/</p> <p>（再掲）資料 1-1-1-(3)-01</p>

	<p>「自己点検・評価に関する基準・項目」 (再掲) 資料 1-1-1-(2)-04 「学校法人金沢工業大学十年委員会規程」 (再掲) 資料 1-1-1-(2)-05 「ICT 教育評価委員会規程」</p>
<p>(2) 学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検しているか。 ■点検して、改定している □点検した上で、改定を要しないと判断している □点検していない</p>	<p>◇点検の実情に関する資料 (実績) 資料 1-3-1-(2)-01 「十年委員会での委員からの意見がわかる資料」 平成 28 年 5 月 9 日に行われた十年委員会で、委員のグローバル人材に関する意見が示されている。 資料 1-3-1-(2)-02 「国際理工学科設置に伴うディプロマ・ポリシー策定案」 十年委員会での意見も踏まえて、平成 28 年 10 月 12 日の学務会議で本資料に基づき、国際理工学科設置に伴うディプロマ・ポリシーを検討した。</p>
<p>1-3 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	

基準 1

<p>優れた点</p>
<p>改善を要する点</p>

基準 2 教育組織及び教員・教育支援者等

<p>評価の視点</p> <p>2-1 学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切なものであること。また、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。</p>	
<p>観点 2-1-① 学科の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 準学士課程の目的と卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）において、全ての学科に関係する記述が明確になっていることを分析すること。</p> <p>○ 学科ごとの目的が、高等専門学校設置基準の規定に適合しているかどうかとともに、本評価書Ⅱに記載した学校の目的に適合しているかについて分析すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第 116 条 (設)第 4 条、第 4 条の 2、第 5 条、第 27 条の 3</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>(1) 学科の構成が学校の目的（本評価書Ⅱに記載したもの。）及び卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性がとれているか。</p> <p>■整合性がとれている</p> <p>□整合性がとれていない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◆学校の目的及び卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を有した学科の構成となっていることについて、資料を基に記述する。</p> <p>本校は「学科の改編履歴がわかる資料」にあるように学科を改編している。</p> <p>資料 2-1-1-(1)-01</p> <p>「学科の改編履歴がわかる資料」</p> <p>ディプロマ・ポリシーは、学則第 1 条で定められている本校の「目的及び使命」および第 6 条の 2 に示される学科ごとの目的に基づき定めている。平成 29 年度以前入学生が所属する電気電子工学科・機械工学科・グローバル情報学科・グローバル情報工学科は、学校の目的及び卒業の認定に関する方針と整合性がとれた学科の構成となっている。</p> <p>資料 2-1-1-(1)-02</p> <p>「学校・学科の目的及び使命が明記された学則抜粋（平成 26 年度以前入学生適用）」</p> <p>資料 2-1-1-(1)-03</p> <p>「学校・学科の目的及び使命が明記された学則抜粋（平成 27～29 年度入学生適用）」</p> <p>資料 2-1-1-(1)-04</p> <p>「ディプロマ・ポリシーが明記された学生便覧（平成 29 年度以前入学生適用）」</p> <p>平成 30 年度に設置した国際理工学科は、学科の目的及</p>

	<p>び卒業の認定に関する方針と整合性がとれている。</p> <p>資料 2-1-1-(1)-05 「学校・学科の目的及び使命が明記された学則抜粋（平成 30 年度以降入学生適用）」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2019/03/11p_regulations.pdf</p> <p>資料 2-1-1-(1)-06 「ディプロマ・ポリシーが明記された学生便覧（平成 30 年度以降入学生適用）」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/student_handbook_s/09p_education.pdf</p>
<p>観点 2-1-1-② 専攻の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 専攻科課程の目的と修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）において、全ての専攻に係る記述が明確になっていることを分析すること。</p> <p>○ 専攻ごとの目的が、学校教育法の規定に適合しているかどうかについて分析すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第 119 条第 2 項</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 専攻の構成が学校の目的（本評価書Ⅱに記載したもの。）及び修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性がとれているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 整合性がとれている</p> <p><input type="checkbox"/> 整合性がとれていない</p>	<p>◇本評価書Ⅱに記載したもの以外に専攻科規程等があれば、それがわかる資料</p> <p>◆学校の目的及び修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を有した専攻の構成となっていることについて、資料を基に記述する。</p>
<p>観点 2-1-1-③ 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動が行われているか。</p>	
<p>【留意点】 なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>

<p>(1) 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇教育活動を有効に展開するため必要と考えられる教務・学生支援・入試等の委員会の組織体制がわかる資料（当該事項を審議するための組織の構成図、運営規程等）</p> <p>（再掲）資料 1-1-1-(2)-06</p> <p>「国際高等専門学校学務会議規程」</p> <p>資料 2-1-3-(1)-01</p> <p>「国際高等専門学校教務委員会規程」</p> <p>教育活動・授業運営などについては、学務会議、教務委員会のもと、教員による教務係が組織され運営補助に当たっている。</p> <p>資料 2-1-3-(1)-02</p> <p>「国際高等専門学校厚生補導委員会規程」</p> <p>学生活動の支援、学校行事の運営などについては、学務会議、厚生補導委員会のもと、教員による学生係が組織され運営補助に当たっている。</p> <p>資料 2-1-3-(1)-03</p> <p>「国際高等専門学校進路指導委員会規程」</p> <p>（再掲）資料 1-1-1-(2)-05</p> <p>「ICT 教育評価委員会規程」</p> <p>資料 2-1-3-(1)-04</p> <p>「国際交流高専委員会規程」</p> <p>資料 2-1-3-(1)-05</p> <p>「国際高等専門学校入学者選考規程」</p> <p>資料 2-1-3-(1)-06</p> <p>「学校法人金沢工業大学教育支援機構規程」</p> <p>資料 2-1-3-(1)-07</p> <p>「令和元年度法人組織表」</p> <p>資料 2-1-3-(1)-08</p> <p>「学事運営の組織構成と学生支援施設が明示されている資料」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/education_information/ir_02.pdf</p> <p>資料 2-1-3-(1)-09</p> <p>「入試運営組織/委員会名簿」</p> <p>資料 2-1-3-(1)-10</p> <p>「H30 教職員校務分担表」</p>
<p>(2) (1)の体制の下、必要な活動を行っているか。</p> <p>■行っている</p> <p>□行っていない</p>	<p>◇活動が行われている実績がわかる資料（当該事項の審議内容を記した会議の議事要旨等）</p> <p>資料 2-1-3-(2)-01</p>

	<p>「H30 会議実施状況表」 資料 2-1-3-(2)-02</p> <p>「H30 第 2 回国際交流委員会議事録」 資料 2-1-3-(2)-03</p> <p>「H30 第 9 回教務委員会議事録」</p>
<p>2-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>該当なし</p>	
<p>評価の視点 2-2 教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること。</p>	
<p>観点 2-2-2-① 学校の目的を達成するために、準学士課程に必要な一般科目担当教員及び各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 本評価書Ⅱに記載した学校の目的に沿って編成された教育課程を展開するために、必要な教員が配置されていることを分析すること。</p> <p>（例 1）目的に「国際的コミュニケーション能力を育成する」を掲げている場合、英語担当教員の配置の充実や、ネイティブスピーカーの配置の充実等。</p> <p>（例 2）目的に「実践的技術者を育成する」を掲げている場合、技術資格を有する者や実務経験を有する者を効果的に配置するなど。</p> <p>○ (1)(2)に関し、専任教員数には助教の数も含めることができる（助手は除く。）。 ○ (4)(5)については、非常勤講師についても分析すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第 120 条 (設)第 6 条、第 7 条、第 8 条、第 9 条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 一般科目担当の専任教員を法令に従い、確保しているか。 ■確保している □確保していない</p>	<p>◇【別紙様式】高等専門学校現況表 資料 2-2-1-(1)-01 「【別紙様式】高等専門学校現況表」</p>
<p>(2) 専門科目担当の専任教員を法令に従い、確保しているか。 ■確保している □確保していない</p>	
<p>(3) 専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数を法令に従い、確保しているか。 ■確保している</p>	

<p><input type="checkbox"/> 確保していない</p>	
<p>(4) 適切な専門分野の教員が授業科目を担当しているか。</p> <p>■ 担当が適切である</p> <p><input type="checkbox"/> 担当が適切でない</p>	<p>◇【別紙様式】担当教員一覧表等</p> <p>資料 2-2-1-(4)-01</p> <p>「【別紙様式】担当教員一覧表等」</p>
<p>(5) 適切な教員配置について専門分野以外に配慮していることがあるか。(該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p>■ 博士の学位</p> <p>■ ネイティブスピーカー (担当する言語を母国語とする)</p> <p>■ 技術資格</p> <p>■ 実務経験 (教育機関以外の民間企業等における勤務経験者等)</p> <p>■ 海外経験</p> <p>■ その他</p>	<p>◆ 配慮事項として掲げる博士の学位、ネイティブスピーカー、技術資格、実務経験、海外経験、その他の具体的な内容について、資料を基に記述する。</p> <p>博士の学位保持者は 23 名である。英語ネイティブスピーカー及び英語を母国語としない教員 14 名が TESOL の修士課程を修了している。また、本校は実践的技術者の養成を目標としており、各学科に関連した技術資格保持者 (19 名) 及びものづくりの企業経験者 (20 名) が勤務している。さらに、国際理工学科には学科長・副学科長を含め、海外経験のある教員 7 名を配置している。ただし、上記人数は平成 30 年度である。</p> <p>資料 2-2-1-(5)-01</p> <p>「【別紙様式】担当教員一覧表等」</p> <p>◆ その他の項目をチェックした場合は、具体的な配慮事項を記述する。</p> <p>国際理工学科では、STEM 教育を実践するため、数学及び理科の科目担当者に一般科目の理教系教員だけでなく、工学を専門とする教員を配置するように配慮している。</p> <p>資料 2-2-1-(5)-02</p> <p>「【別紙様式】担当教員一覧表等」</p>
<p>観点 2-2-② 学校の目的を達成するために、専攻科課程に必要な各分野の教育研究能力を有する専攻科担当教員が適切に配置されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 本評価書Ⅱに記載した目的や修了の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー) に基づいて編成された教育課程を展開するために必要な教員が配置されていることを分析すること。</p> <p>(例) 目的に「応用開発型技術者を育成する」を掲げている場合、博士取得者、技術資格を有する者や実務経験を有する者を効果的に配置するなど。</p> <p>○ 本評価書Ⅰ(1)4. において、特例適用専攻科について記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法) 第 119 条第 2 項</p>

<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input type="checkbox"/>満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/>満たしていると判断しない</p> <p>（根拠理由欄）</p> <p>満たしていると判断する場合であって、特例適用専攻科の認定に係る結果を利用する場合は、当該結果が利用できるかと判断した根拠理由を記述すること。</p> <p>なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の各項目について分析すること。</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 専攻科の授業科目担当教員を適切に確保しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>適切に確保している</p> <p><input type="checkbox"/>適切に確保していない</p>	<p>◇【別紙様式】担当教員一覧表等</p> <p>◆左記について、資料を基に記述する。</p>
<p>(2) 適切な専門分野の教員が授業科目を担当しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>担当が適切である</p> <p><input type="checkbox"/>担当が適切でない</p>	
<p>(3) 適切な研究実績・研究能力を有する教員が研究指導を担当しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>担当が適切である</p> <p><input type="checkbox"/>担当が適切でない</p>	◇適切な研究実績・研究能力を有する教員が研究指導を担当していることがわかる資料
<p>観点 2-2-③ 学校の目的に応じた教育研究活動の活性化を図るため、教員の年齢構成等への配慮等適切な措置が講じられているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
関係法令	(設)第6条第6項
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/>満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 教員の配置について、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るため、教員の構成が特定の範囲の年齢に著しく偏ることのないよう配慮しているか。</p> <p>■配慮している</p> <p><input type="checkbox"/>配慮していない</p>	<p>◇教員の年齢構成がわかる資料（観点4-3-①の、教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関する根拠資料を流用してもよい。）</p> <p>資料 2-2-3-(1)-01</p> <p>「教員年齢構成が明示された資料」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2019/03/education_informationir_03.pdf</p> <p>◆配慮の取組について、資料を基に記述する。</p> <p>ここ数年は特に若い年齢層の教員を積極的に採用して</p>

	<p>おり、前回の認証評価時（平成 24 年度）と比べると 20 代～50 代の教員が増え、学校の将来を担う若年層と中間層が強化されている。全体的に偏りがなくバランスは取れていると考える。</p> <p>資料 2-2-3-(1)-02 「教員年齢構成割合表」</p> <p>資料 2-2-3-(1)-03 「教員採用状況」</p>
<p>(2) (1)以外に配慮している措置はあるか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p><input type="checkbox"/>教育経歴</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>実務経験</p> <p><input type="checkbox"/>男女比</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>	<p>◇左記でチェックした項目について、実施状況がわかる資料</p> <p>資料 2-2-3-(2)-01 「【別紙様式】担当教員一覧表等」</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>
<p>(3) 在職する教員に対して教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図るために行っている措置等はあるか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>学位取得に関する支援</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>任期制の導入</p> <p><input type="checkbox"/>公募制の導入</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>教員表彰制度の導入</p> <p><input type="checkbox"/>企業研修への参加支援</p> <p><input type="checkbox"/>校長裁量経費等の予算配分</p> <p><input type="checkbox"/>ゆとりの時間確保策の導入</p> <p><input type="checkbox"/>サバティカル制度の導入</p> <p><input type="checkbox"/>他の教育機関との人事交流</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>その他</p>	<p>◇左記でチェックした項目について、実施状況がわかる資料</p> <p>《学位取得に関する支援》</p> <p>資料 2-2-3-(3)-01 「学位取得に関する支援がわかる派遣留学規程」</p> <p>資料 2-2-3-(3)-02 「高専派遣留学実績（H26～30 年度）」 若い年齢層の教員を中心に修士課程・博士課程への派遣留学を推進し、教育力の向上に努めている。</p> <p>《任期制の導入》</p> <p>資料 2-2-3-(3)-03 「任期制の導入がわかる任期付教員に関する規程」</p> <p>《教員表彰制度の導入》</p> <p>資料 2-2-3-(3)-04 「教員表彰制度の導入がわかる金沢工業大学表彰規程」</p> <p>資料 2-2-3-(3)-05 「理事長表彰に関する申合せ」</p> <p>資料 2-2-3-(3)-06 「理事長表彰実績（H26～30 年度）」</p> <p>資料 2-2-3-(3)-07 「理事長表彰受賞時の記事」</p> <p>資料 2-2-3-(3)-08 「優秀教員受賞者一覧」</p>

	<p>資料 2-2-3-(3)-09 「H30 年優秀教員 2 名の表彰式が記載された HP 記事」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/2018/09/28/4626/</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p> <p>教員の教育研究活動の活発化に向け、法人から創造技術研究所に予算を配分し、研究活動の支援や研究報告書発行を行っている。</p> <p>資料 2-2-3-(3)-10 「H30 創造技術教育研究報告書」</p> <p>資料 2-2-3-(3)-11 「創造技術教育成果件数」</p> <p>教員の教育力向上や継続的な自己啓発の動機付けの観点から、北陸信越工学教育協会への所属を奨励している。会員数は 27 人で、その会費は法人が負担している。</p> <p>資料 2-2-3-(3)-12 「H30 北工教・日工教会員数が明示された会報」</p> <p>資料 2-2-3-(3)-13 「H30 北陸信越工学教育協会所属人数」</p>
<p>2-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>本校は多様性を考慮した教員配置をしており、一般教科の英語科目担当教員だけではなく、他の一般教科や各学科に国籍や文化の異なる海外出身の教員を配置している。教員の出身国は学校全体で 10 개국を超えている。中でも多くの科目が英語で行われる国際理工学科では、所属教員の半数以上が外国人教員である（観点 2-2-①-(5)参照）。</p>	
<p>評価の視点</p>	
<p>2-3 全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われていること。また、教員の採用及び昇格等に当たって、明確な基準や規定が定められ、それに従い適切な運用がなされていること。</p>	
<p>観点 2-3-① 全教員の教育研究活動に対して、学校による定期的な評価が行われており、その結果が活用されているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 全教員（非常勤教員を除く。）に対して校長又はその委任を受けた者による教育上の能力や活動実績に関する評価を定期的に行い、その結果を基に給与・研究費</p>	<p>◇教員評価に係る規程等がわかる資料 資料 2-3-1-(1)-01 「学校法人金沢工業大学表彰規程」</p>

<p>配分への反映や教員組織の見直し等の適切な取組を行う体制を整備しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 整備している</p> <p><input type="checkbox"/> 整備していない</p>	<p>(再掲) 資料 2-2-3-(3)-05 「理事長表彰に関する申合せ」</p> <p>資料 2-3-1-(1)-02 「自己点検評価のしくみ」</p>
<p>(2) (1)の体制の下、教員評価を実施しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 実施している</p> <p><input type="checkbox"/> 実施していない</p>	<p>資料 2-3-1-(1)-03 「評価材料となる授業アンケート設問および結果(抜粋)」</p> <p>資料 2-3-1-(1)-04 「"教育改善への取組と今年度の目標およびその成果"提出依頼の資料」</p> <p>資料 2-3-1-(1)-05 「評価材料となる"教育改善への取組と今年度の目標およびその成果"」</p> <p>資料 2-3-1-(1)-06 「校長による教員の面談記録」</p> <p>資料 2-3-1-(1)-07 「教員への校長面談実施の案内」 令和元年度からは、全教員を対象に校長面談を実施する予定である。</p> <p>◇給与や研究費配分に活用することとしているか、教員組織の見直し等に活用することとしているかがわかる資料 理事長表彰により、賞金が給与の一部となる仕組みがあるが、それ以外の実施例はない。</p> <p>(再掲) 資料 2-3-1-(1)-01 「学校法人金沢工業大学表彰規程」</p>
<p>(3) 把握した評価結果を基に、行っている取組はあるか。(該当する選択肢にチェック<input checked="" type="checkbox"/>する。)</p> <p><input type="checkbox"/> 給与における措置</p> <p><input type="checkbox"/> 研究費配分における措置</p> <p><input type="checkbox"/> 教員組織の見直し</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 表彰</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<p>◆その他の項目をチェックした場合は、内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p> <p>◆評価結果を具体的にどのように活用しているのか、資料を基に記述する。</p> <p>法人規程に基づき、多大な功績が認められた教員に対して理事長表彰が贈られ、賞金が給与として振り込まれる仕組みになっている。本校教員の受賞実績・報告記事は資料に示すとおりである。</p> <p>(再掲) 資料 2-2-3-(3)-06 「理事長表彰実績 (H26～30年度)」</p> <p>(再掲) 資料 2-2-3-(3)-07 「理事長表彰受賞時の記事」</p>

	<p>さらに、理事長表彰とは別に、学生からの授業アンケート結果、毎年教員が提出する「教育改善への取組と今年度の目標」及び日頃の教育活動の成果等を基に、校長が年度ごとに優秀教員を選出し、表彰を行っている。</p> <p>資料 2-3-1-(3)-01 「H30 優秀教員選考資料」 (再掲) 資料 2-2-3-(3)-08 「優秀教員受賞者一覧」 (再掲) 資料 2-2-3-(3)-09 「H30 年優秀教員 2 名の表彰式が記載された HP 記事」</p>
<p>(4) 非常勤教員に対し教員評価を実施しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 実施している <input type="checkbox"/> 実施していない</p>	<p>◇教員評価に係る規程等を定めた資料</p> <p>専任の教員と同様に「教育改善への取組と今年度の目標」の提出を依頼している。校長は提出された「教育改善への取組と今年度の目標」を確認・評価しているが、規程としてはない。</p> <p>◇実施していることがわかる資料</p> <p>資料 2-3-1-(4)-01 「評価材料となる教育改善への取組と今年度の目標およびその成果（非常勤）」</p>
<p>観点 2-3-② 教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ (3)の◆の自己評価において、採用や昇格等に関する規程が高等専門学校設置基準に適合することについて、採用や昇格に関して教育上の能力を考慮していることについても言及すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設) 第 11～14 条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 教員（非常勤教員を除く。）の採用・昇格等に関する基準を法令に従い定めているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 定めている <input type="checkbox"/> 定めていない</p>	<p>◇定めている規程がわかる資料（採用・昇格に関する体制、方法、教員の資格、能力や業績に関する基準等が明記されているもの。）</p> <p>資料 2-3-2-(1)-01 「教員任用基準がわかる規程」 資料 2-3-2-(1)-02 「学校法人金沢工業大学人事委員会規則」 資料 2-3-2-(1)-03 「教員昇任基準がわかる規程」 (再掲) 資料 2-2-3-(3)-03</p>

	<p>「任期制の導入がわかる任期付教員に関する規程」</p>
<p>(2) (1)で定められている基準等では、教育上の能力等を 確認する仕組みとなっているか。(該当する選択肢にチ ェック■する。)</p> <p><input type="checkbox"/>模擬授業の実施</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>教育歴の確認</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>実務経験の確認</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>海外経験の確認</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>国際的な活動実績の確認</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>	<p>◇実施・確認していることがわかる資料</p> <p>《実務経験の確認》</p> <p>資料 2-3-2-(2)-01</p> <p>「本校から人事課への採用依頼(実務経験ベースの採用)」</p> <p>《教育歴、海外経験、国際的な活動実績の確認》</p> <p>資料 2-3-2-(2)-02</p> <p>「本校から人事課への採用依頼(教育歴・海外経験・国際 活動ベースの採用)」</p> <p>《共通資料》</p> <p>資料 2-3-2-(2)-03</p> <p>「国際高等専門学校教員採用フロー図」</p> <p>資料 2-3-2-(2)-04</p> <p>「国際高等専門学校教員昇任フロー図」</p> <p>資料 2-3-2-(2)-05</p> <p>「本校から人事課への昇任依頼」</p> <p>資料 2-3-2-(2)-06</p> <p>「H30 採用審議記録」</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、内容を列記し、 その状況がわかる資料を提示する。</p>
<p>(3) (1)の基準等に基づき、実際の採用・昇格等を行って いるか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>行っている</p> <p><input type="checkbox"/>行っていない</p>	<p>◆左記について、採用・昇格の実績を踏まえ、資料を基 に記述する。</p> <p>本法人では、観点 2-3-2-(2)で記載したフロー図のよう に、校長から法人の人事課に採用・昇任依頼を提出し、そ の後、法人の人事委員会で決定している。</p> <p>資料 2-3-2-(3)-01</p> <p>「人事委員会決議録」</p> <p>近年の採用・昇任の状況は以下の資料に示す。</p> <p>(再掲) 資料 2-2-3-(1)-03</p> <p>「教員採用状況」</p> <p>資料 2-3-2-(3)-02</p> <p>「教員昇格状況」</p>
<p>(4) 非常勤教員の採用基準等を定めているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>定めている</p> <p><input type="checkbox"/>定めていない</p>	<p>◇非常勤教員の採用基準等の規程がわかる資料</p> <p>資料 2-3-2-(4)-01</p> <p>「学校法人金沢工業大学非常勤講師規程」</p>

<p>2-3 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>該当なし</p>	
<p>評価の視点</p>	
<p>2-4 教員の教育能力の向上を図る取組が適切に行われていること。また、教育活動を展開するために必要な教育支援者等が適切に配置され、資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。</p>	
<p>観点2-4-① 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究（ファカルティ・ディベロップメント）が、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善が図られているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第17条の4</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校として、授業の内容及び方法の改善を図るためにファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）を実施する体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇関係する委員会等の組織関係図、役割と責任が把握できる資料、関連規程</p> <p>資料 2-4-1-(1)-01</p> <p>「国際高等専門学校学務会議規程」</p> <p>◇実施体制・実施方針・内容・方法がわかる資料</p> <p>資料 2-4-1-(1)-02</p> <p>「FD/SD 実施方針」</p>
<p>(2) 定期的にFDを実施しているか。</p> <p>■実施している</p> <p>□実施していない</p>	<p>◇実施状況（参加状況等。）がわかる資料</p> <p>資料 2-4-1-(2)-01</p> <p>「H30 FD 研修一覧」</p> <p>◇FDに関する報告書等の該当箇所等</p> <p>資料 2-4-1-(2)-02</p> <p>「新規採用教職員研修会」</p> <p>資料 2-4-1-(2)-03</p> <p>「アンケート報告及びポジティブ教育研修会」</p> <p>資料 2-4-1-(2)-04</p> <p>「H30 年新規採用教職員穴水研修」</p> <p>資料 2-4-1-(2)-05</p> <p>「人を対象とした研究倫理研修」</p> <p>資料 2-4-1-(2)-06</p>

	<p>「3つのポリシーFD/SD 研修」 資料 2-4-1-(2)-07 「情報セキュリティ研修」 資料 2-4-1-(2)-08 「平成 30 年度教育成果発表会」</p>
<p>(3) (2)のFDを実施した結果が、改善に結びついているか。 ■結びついている □結びついていない</p>	<p>◆FDの結果、改善に結びついた事例で組織として把握している取組について、資料を基に記述する。 平成 30 年 1 月に行った FD 研修を基に、国際理工学科の学習支援システムとして manaba を導入した。現在は主に課題や小テスト、アンケートなどの提供・提出の用途で使用している。平成 31 年 3 月の教育成果発表会では、manaba の導入事例を学科長が他の教職員に報告し、manaba の有益性を示すとともに、次年度はさらに活用範囲を課外活動などにも広げる予定であることを伝えた。 資料 2-4-1-(3)-01 「FD 結果に基づいた取り組み（manaba 導入事例とフィードバック）」</p>
<p>観点 2-4-② 学校における教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。</p>	
<p>【留意点】 ○ 助手を配置している場合には、組織、人数、支援内容等の配置状況がわかる資料を提示すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第 120 第 1 項第 1 号、2 号、7 号 (設)第 7 条、第 10 条、第 25 条第 2 項</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 教育支援者等（事務職員、技術職員、図書館職員、助手等。）を法令に従い適切に配置しているか。 ■配置している □配置していない</p>	<p>◇【別紙様式】高等専門学校現況表、教育支援者に関する事務組織図、役割分担がわかる資料 (再掲) 資料 2-2-1-(1)-01 【別紙様式】高等専門学校現況表</p>
<p>(2) 図書館に司書等の専門的職員を法令に従い適切に配置しているか。 ■配置している □配置していない</p>	<p>資料 2-4-2-(1)-01 「H30 事務職員校務分担表」 資料 2-4-2-(1)-02 「学校法人金沢工業大学事務運営組織表」 資料 2-4-2-(1)-03 「H30 教育支援者人数」 資料 2-4-2-(1)-04 「図書館司書資格証明書」</p>

<p>観点2-4-③ 教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ スタッフ・ディベロップメント（管理運営等の研修）への取組は観点4-2-⑤で分析するため、ここでは、FDに関連した教育の質の向上や授業の改善に関する教育支援者に対する取組を分析すること。FDへの取組の中で教員と教育支援者双方を対象とするものも想定される。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>(1) 教育支援者等（事務職員、技術職員、図書館職員、助手等。）に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組を適切に行っているか。</p> <p>■行っている</p> <p>□行っていない</p>	<p>◇研修等の実施状況（参加状況等。）の取組がわかる資料（再掲）資料2-4-1-(2)-01</p> <p>「H30 FD 研修一覧」</p> <p>資料2-4-3-(1)-01</p> <p>「H30 技術職員（夢考房）研修一覧」</p> <p>金沢キャンパスの実習・工作施設である夢考房の技術職員が、安全管理や技術向上のための研修を行っている。</p>
<p>2-4 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>観点2-4-3-(1)に関し、本校ではFD研修に事務職員も参加していることから、事務職員向け研修の実施報告は観点2-4-1-(2)と同じであるため、参加人数を示した研修一覧のみ添付する。</p>	

基準2

<p>優れた点</p>
<p>改善を要する点</p>

基準3 学習環境及び学生支援等

<p>評価の視点</p> <p>3-1 学校において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されていること。また、ICT環境が適切に整備されるとともに、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されていること。</p>	
<p>観点3-1-① 学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ (4)の専用の施設とは、高等専門学校設置基準第23条に規定する施設のことである。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第22条、第23条、第24条、第26条、第27条、第27条の2、(施)第172条の2</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 校地面積を法令に従い適切に確保しているか。</p> <p>■確保している</p> <p>□確保していない</p>	<p>◇【別紙様式】高等専門学校現況表 (再掲) 資料2-2-1-(1)-01 「【別紙様式】高等専門学校現況表」</p>
<p>(2) 校舎面積を法令に従い適切に確保しているか。</p> <p>■確保している</p> <p>□確保していない</p>	<p>◇【別紙様式】高等専門学校現況表 (再掲) 資料2-2-1-(1)-01 「【別紙様式】高等専門学校現況表」</p>
<p>(3) 運動場を設けているか。</p> <p>■校舎と同一の敷地内又はその隣接地に設けている</p> <p>□その他の適当な位置に設けている</p> <p>□設けていない</p>	<p>◇設置状況がわかる資料 資料3-1-1-(3)-01 「グラウンドの位置がわかる校舎配置図」 ◆その他の適当な位置に設けているをチェックした場合は、その設置場所を具体的に記述する。</p>
<p>(4) 高等専門学校の校舎に専用の施設を法令に従い適切に備えているか。</p> <p>■備えている</p> <p>□備えていない</p>	<p>◇設置状況がわかる資料 《金沢キャンパス》 資料3-1-1-(4)-01 「金沢キャンパス校舎平面図(31号館)」 資料3-1-1-(4)-02 「金沢キャンパス体育館平面図(13号館)」 《白山麓キャンパス》 資料3-1-1-(4)-03 「白山麓キャンパス配置図」 資料3-1-1-(4)-04 「白山麓キャンパス校舎棟平面図(101号館)」 資料3-1-1-(4)-05 「白山麓キャンパス体育館平面図(102号館)」</p>

	<p>資料 3-1-1-(4)-06 「白山麓キャンパス学生寮平面図」</p> <p>資料 3-1-1-(4)-07 「KIT イノベーションハブ平面図 (100 号館)」 金沢工業大学との共用施設で、1 F の体育館 (ボルダリングウォール設置)・保健室、2 F のカフェテリア・音楽ラウンジなどを利用している。</p>
<p>(5) 学科の種類に応じ、附属施設を法令に従い適切に整備しているか。(該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p>■実験・実習工場</p> <p>□練習船</p> <p>□その他</p>	<p>◇設置状況がわかる資料</p> <p>《金沢キャンパス》</p> <p>資料 3-1-1-(5)-01 「金沢キャンパス実習・工作施設 夢考房 41 号館案内」</p> <p>《白山麓キャンパス》</p> <p>資料 3-1-1-(5)-02 「白山麓キャンパス Maker Studio 写真」</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、その施設を具体的に記述する。</p>
<p>(6) 自主的学習スペースを設けているか。</p> <p>■設けている</p> <p>□設けていない</p>	<p>◇設置状況がわかる資料</p> <p>資料 3-1-1-(6)-01 「金沢キャンパス 自習室の案内」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/education_information/ir_02.pdf</p>
<p>(7) 教育研究環境の充実を図るため、(3)～(6)以外の施設・設備を設けているか。(該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p>■厚生施設</p> <p>□コミュニケーションスペース</p> <p>□その他</p>	<p>◇設置状況がわかる資料</p> <p>《金沢キャンパス》</p> <p>資料 3-1-1-(7)-01 「トレーニングジムの設備がわかる資料」</p> <p>資料 3-1-1-(7)-02 「簡易郵便局の設置がわかる資料」</p> <p>資料 3-1-1-(7)-03 「飲食関係のサービス施設の設置がわかる資料」</p> <p>資料 3-1-1-(7)-04 「各種サービス施設の設置がわかる資料」</p> <p>《学外研修施設》</p> <p>資料 3-1-1-(7)-05 「研修施設の概要がわかる資料」</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、その施設を具体的に記述する。</p>

<p>(8) 施設・設備の安全衛生管理体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇安全衛生管理体制がわかる資料</p> <p>資料 3-1-1-(8)-01 「学校法人金沢工業大学安全委員会規程」</p> <p>資料 3-1-1-(8)-02 「安全委員会運営規程」</p> <p>資料 3-1-1-(8)-03 「安全に関する教職員配置がわかる資料」</p> <p>資料 3-1-1-(8)-04 「高専安全委員会の構成員がわかる資料」</p> <p>資料 3-1-1-(8)-05 「高専安全委員会の設置がわかる組織図」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/education_information/ir_02.pdf</p> <p>高専安全委員会は、法人で設置している学部等安全委員会のメンバーを元に構成している。メンバーの一部が上部組織の学校法人金沢工業大学安全委員会に所属し、法人の方針をもとに、高専での安全管理を実施していく体制となっている。また、法人に事務組織として安全委員会室が設置されている。</p> <p>資料 3-1-1-(8)-06 「高専火元・安全責任者リスト」</p> <p>資料 3-1-1-(8)-07 「安全責任者が行う安全点検チェックリスト」</p> <p>部屋ごとに安全責任者が設置され、定期的な点検が義務付けられている。</p> <p>資料 3-1-1-(8)-08 「施設・設備の整備・管理部署を定めた規程」</p> <p>◇設備使用に関する規定、設備利用の手引き等</p> <p>資料 3-1-1-(8)-09 「金沢キャンパス 夢考房利用案内資料」</p> <p>資料 3-1-1-(8)-10 「白山麓キャンパス Maker Studio 利用ガイドライン」</p>
<p>(9) (8)の体制が有効に機能しているか。</p> <p>■機能している</p> <p>□機能していない</p>	<p>◆安全(指導)管理に係る講習会等が行われている事例に関する資料を基に記述する。</p> <p>学校法人金沢工業大学安全委員会のもと、毎年基準に沿った安全4S点検を実施しており、結果をフィードバックし改善の推進を図っている。</p>

	<p>資料 3-1-1-(9)-01 「4 S 点検評価実施の案内」</p> <p>資料 3-1-1-(9)-02 「4 S 点検評価基準」</p> <p>資料 3-1-1-(9)-03 「平成 30 年度前期 4 S 評価結果」</p> <p>金沢キャンパスの夢考房の加工機器などを扱う際は、講習を受講後、ライセンスを付与した者のみ利用可能とする仕組みを整え、安全管理の体制を機能させている。</p> <p>資料 3-1-1-(9)-04 「夢考房ライセンス講習会の案内」</p> <p>資料 3-1-1-(9)-05 「夢考房ライセンス講習会スケジュール 2018」</p>
<p>(10) 施設・設備のバリアフリー化への配慮を行っているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 行っている</p> <p><input type="checkbox"/> 行っていない</p>	<p>◇施設・設備の整備状況・整備計画等のバリアフリー化への取組を示す資料</p> <p>資料 3-1-1-(10)-01 「白山麓キャンパス校舎のバリアフリー設備がわかる資料」</p>
<p>(11) 整備された教育・生活環境の利用状況や満足度等を学校として把握し改善等を行う体制を整備しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 整備している</p> <p><input type="checkbox"/> 整備していない</p>	<p>◇体制に関する規程等の資料</p> <p>資料 3-1-1-(11)-01 「利用状況や満足度のアンケートを実施する部署を示した規程」</p> <p>資料 3-1-1-(11)-02 「施設・環境に関するアンケート項目」 (再掲) 資料 1-1-1-(2)-02 「自己点検・評価に関する高専組織構成図」</p> <p>上記の体制以外に、設備に関する学生や教職員からの直接的な要望に対して早急な対応が可能なものは、担当の部署や主事・科長が対応・改善することとしている。</p>
<p>(12) (11)の体制において、教育・生活環境の利用状況や満足度等を把握し、改善等を実際に行っているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 行っている</p> <p><input type="checkbox"/> 行っていない</p>	<p>◇教育・生活環境の利用状況や満足度等が把握できる資料</p> <p>資料 3-1-1-(12)-01 「教育・生活環境に関するアンケートの結果」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2018/06/h29_2.pdf</p> <p>資料 3-1-1-(12)-02 「施設・設備に関するアンケート 自由記述の抜粋」</p>

	<p>◆左記について、改善を行った事例があれば、その事例の内容がわかる資料を基に記述する。</p> <p>施設・設備に関するアンケートの自由記述中に、改善意見があったものから何点かの改善を図った。</p> <p>(再掲) 資料 3-1-1-(12)-02 「施設・設備に関するアンケート 自由記述の抜粋」</p> <p>アンケートの中で、大雪の際の休校連絡についての意見が多数あった。このため、教務主事の下で対応を検討し、学務会議で外部の緊急時一斉メール配信サービスの導入が承認され、平成31年1月より実施した。</p> <p>資料 3-1-1-(12)-03 「外部の緊急時一斉メール配信サービスの導入を審議した記録」</p> <p>資料 3-1-1-(12)-04 「一斉メール配信サービス導入の案内文」</p> <p>令和元年5月17日の育友会総会にて、ウォータークーラー(冷水機)の新たな購入予算が承認され、6月に配備された。</p> <p>法人の整備計画に基づき体育館の空調工事が実施される。令和元年7月から工事が開始する予定である。</p> <p>資料 3-1-1-(12)-05 「体育館の空調設備設置に関する資料」</p>
<p>観点3-1-② 教育内容、方法や学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ この観点のICT環境とは、無線・有線LANやパソコン等の活用環境等のネットワークシステムの整備状況(利用可能なエリアの状況も含む。)の概要を想定しており、ネットワークシステムの具体的な方式等については資料として求めている。</p> <p>○ この観点では、ハードウェアの側面から捉えたICT環境について分析するものとし、ソフトウェアの側面から構築された成績確認や学習相談等に関するシステムの整備については、観点3-2-②で分析すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 教育内容、方法や学生のニーズに対応したICT環</p>	<p>◇ICT環境の整備状況がわかる資料(学校内ネットワ</p>

<p>境を適切に整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>ーク環境の整備状況、授業内外で学生が利用可能なパソコンの台数、情報処理センターの組織規程等。)</p> <p>資料 3-1-2-(1)-01</p> <p>「金沢工業大学情報処理サービスセンター規程」</p> <p>情報処理サービスセンターは共同利用機関として、高専を含んだ法人全体の I C T 環境の整備を担当している。</p> <p>資料 3-1-2-(1)-02</p> <p>「金沢工業大学ネットワーク接続図」</p> <p>資料 3-1-2-(1)-03</p> <p>「金沢キャンパス パソコン配備図」</p> <p>資料 3-1-2-(1)-04</p> <p>「学生が利用可能な PC 台数がわかる資料」</p> <p>この他、5 年生は各卒業研究の研究室に配備されたパソコンが利用できる。</p>
<p>(2) I C T 環境のセキュリティ管理体制を適切に整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇セキュリティ管理に関する規程等、セキュリティポリシー、セキュリティシステムの概要、I C T 環境の管理体制及び業務内容、講習会等がわかる資料</p> <p>資料 3-1-2-(2)-01</p> <p>「学校法人金沢工業大学の情報セキュリティーポリシー」</p> <p>資料 3-1-2-(2)-02</p> <p>「金沢工業大学学園コンピュータネットワーク利用規範」</p> <p>資料 3-1-2-(2)-03</p> <p>「情報処理サービスセンター利用案内」</p> <p>資料 3-1-2-(2)-04</p> <p>「情報処理サービスセンター紹介 HP」</p> <p>http://www.kanazawa-it.ac.jp/dpc/</p> <p>資料 3-1-2-(2)-05</p> <p>「情報倫理に関する学習コースの利用案内=INFOSS=」</p> <p>http://uranus.mars.kanazawa-it.ac.jp/dpc/info_ss_top/</p> <p>(再掲) 資料 2-4-1-(2)-07</p> <p>「情報セキュリティ研修」</p> <p>資料 3-1-2-(2)-06</p> <p>「情報セキュリティに関する講習会資料」</p>
<p>(3) I C T 環境は有効に活用されているか。</p> <p>■活用されている</p> <p>□活用されていない</p>	<p>◇ I C T 環境の利用状況がわかる資料</p> <p>資料 3-1-2-(3)-01</p> <p>「金沢キャンパス デスクトップパソコン稼働状況」</p>
<p>(4) (3)について学生や教職員の I C T 環境の利用状況や満足度等を学校として把握し改善等を行う体制を整備</p>	<p>◇体制に関する規定等の資料</p> <p>(再掲) 資料 3-1-1-(11)-01</p>

<p>しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>「利用状況や満足度のアンケートを実施する部署を示した規程」</p> <p>(再掲) 資料 3-1-1-(11)-02</p> <p>「施設・環境に関するアンケート項目」</p> <p>(再掲) 資料 1-1-1-(2)-02</p> <p>「自己点検・評価に関する高専組織構成図」</p> <p>上記の体制以外に、設備に関する学生や教職員からの直接的な要望に対して早急な対応が可能なものは、担当の部署や主事・科長が対応・改善することとしている。</p>
<p>(5) (4)の体制が機能しているか。</p> <p>■機能している</p> <p>□機能していない</p>	<p>◆左記について、改善を行った事例がある場合は、その事例の内容がわかる資料を基に記述する。</p> <p>学生のアンケート結果には例年、ネットワーク環境についての改善要望がある。また、教員からも授業運営を考慮し、ネットワーク環境の改善要望があった。これらを受けて、ネットワーク環境を管理する情報処理サービスセンターに無線ルーター増設を依頼し、ネットワーク環境が改善された。</p> <p>(再掲) 資料 3-1-1-(12)-02</p> <p>「施設・設備に関するアンケート 自由記述の抜粋」</p> <p>資料 3-1-2-(5)-01</p> <p>「無線ルーター増設の要望書」</p>
<p>観点3-1-③ 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 教育課程、学科の種類、学年区分に応じて、教育研究上必要となる図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の資料が系統的（学科構成に対応した系統性、学習内容に対応した分野やレベル等の系統性。）に収集、整理されているかについて分析すること。また、活用面について、これらの資料の教職員や学生による利用状況等について分析すること。</p> <p>○ 図書等の整備方針、整備状況及び図書館等の開館時間がわかる資料を提示すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第 25 条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 図書館の設備を法令に従い備えているか。</p> <p>■備えている</p> <p>□備えていない</p>	<p>◇整備状況がわかる資料</p> <p>資料 3-1-3-(1)-01</p> <p>「ライブラリーセンター案内」</p> <p>資料 3-1-3-(1)-02</p> <p>「ライブラリーセンター Floor Map」</p>

<p>(2) 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を系統的に収集、整理しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 系統的に収集、整理している</p> <p><input type="checkbox"/> 系統的に収集、整理していない</p>	<p>https://www.kanazawa-it.ac.jp/kitlc/about/map.html</p> <p>◇整備方針、整備状況（内訳、冊子等のデータ）がわかる資料</p> <p>資料 3-1-3-(2)-01 「金沢工業大学ライブラリーセンター規程」</p> <p>資料 3-1-3-(2)-02 「金沢工業大学ライブラリーセンター資料収集・管理規定」</p> <p>資料 3-1-3-(2)-03 「冊子等のデータがわかる資料」</p> <p>図書館については、法人のもとに大学と共用のライブラリーセンターが設置されており、学生は多くの資料を利用できる体制となっている。</p>
<p>(3) (2)の資料は、教職員や学生に有効に活用されているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 活用されている</p> <p><input type="checkbox"/> 活用されていない</p>	<p>◇図書館等の教職員や学生による利用状況（図書等貸出数、図書館入館者数）がわかる資料</p> <p>資料 3-1-3-(3)-01 「平成30年度資料貸出・入館者集計がわかる資料」</p> <p>資料 3-1-3-(3)-02 「過去の貸出集計がわかる資料」</p> <p>教職員の利用状況に関しては、大学・法人職員等を含めた法人全体の数であり、高専のみのデータではない。</p>
<p>(4) (2)の資料が有効に活用されるための取組を行っているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 行っている</p> <p><input type="checkbox"/> 行っていない</p>	<p>◇図書館等の利用サービスに係る取組（開館時間への配慮、職員等によるガイダンス等）がわかる資料</p> <p>資料 3-1-3-(4)-01 「ライブラリーセンター 平成30年度 開館カレンダー」</p> <p>https://www.kanazawa-it.ac.jp/kitlc/info/index.html</p> <p>基本的な開館時間は、平日が22:00まで、土・日も17:00まで利用可能である。</p> <p>資料 3-1-3-(4)-02 「相談・レファレンス教員についての資料」</p> <p>https://www.kanazawa-it.ac.jp/kitlc/about/sl.html</p> <p>高専及び金沢工業大学の教員が、学習相談やレファレンスの対応をするために配置されている。</p>
<p>3-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	

学校法人金沢工業大学によって設置された大学との共用施設（夢考房、ライブラリーセンター、情報処理サービスセンター、数理工教育研究センターなど）により、高専だけでは実現できない教育支援の充実が図られている（観点 3-1-①、②、③参照）。

評価の視点

3-2 教育を実施する上での履修指導、学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能していること。また、学生の課外活動に対する支援体制等が整備され、機能していること。

観点 3-2-① 履修等に関するガイダンスを実施しているか。

【留意点】

- 入学時や授業登録時等において実施しているガイダンスについて、学校全体に対するものか、学年全体に対するものか、学科・専攻ごとに実施するものか、それぞれの内容が適切なものかについて分析すること。
- 図書館、実験・実習工場等の利用に関するガイダンスの実施について分析すること。

観定の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観定の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 教育を実施する上でのガイダンスをどのような対象に対して実施しているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■学科生 □専攻科生 □編入学生 □留学生 □障害のある学生 □社会人学生 □その他 	<p>◇実施状況がわかる資料</p> <p>資料 3-2-1-(1)-01 「ガイダンスを実施しているオリエンテーション期間のスケジュール（金沢キャンパス）」</p> <p>資料 3-2-1-(1)-02 「ガイダンスを実施しているオリエンテーション期間のスケジュール（白山麓キャンパス）」</p> <p>資料 3-2-1-(1)-03 「金沢キャンパス ガイダンスの一例」（再掲）資料 3-1-1-(9)-04 「夢考房ライセンス講習会の案内」</p> <p>資料 3-2-1-(1)-04 「白山麓キャンパス 1 年生図書利用のガイダンス資料」 金沢キャンパスのライブラリーセンター職員が、白山麓キャンパスの新生に対してガイダンスを行っている。</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>

観点 3-2-② 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握され、学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。

<p>【留意点】</p> <p>○ (1)の相談・助言体制については、学生への周知状況（刊行物、プリント、ウェブサイト等の該当箇所。）についても分析すること。</p> <p>○ 相談・助言体制やニーズ把握の仕組みが機能しているかを確認するため、それぞれの体制の利用状況や、ニーズを把握するための仕組みについて分析すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学生の自主的学習を進める上で、どのような相談・助言体制を整備しているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p>■担任制・指導教員制の整備</p> <p>■オフィスアワーの整備</p> <p>■対面型の相談受付体制の整備</p> <p>□電子メールによる相談受付体制の整備</p> <p>■ICTを活用した成績確認や学習相談等に関するシステムの整備</p> <p>■資格試験・検定試験等の支援体制の整備</p> <p>□外国への留学に関する支援体制の整備</p> <p>□その他</p>	<p>◇チェックした選択肢に関する状況がわかる資料</p> <p>《担任制・指導教員制の整備》</p> <p>資料 3-2-2-(1)-01</p> <p>「担任配置がわかる資料」</p> <p>資料 3-2-2-(1)-02</p> <p>「学級担任・副担任業務」</p> <p>《オフィスアワーの整備》</p> <p>資料 3-2-2-(1)-03</p> <p>「オフィスアワーを記載した資料」</p> <p>科目ごとに全教員がオフィスアワーを設定している。</p> <p>資料 3-2-2-(1)-04</p> <p>「数学サポートアワーの案内」</p> <p>平成31年4月より、数理工教育研究センターに所属する金沢工業大学の教員により、放課後の数学科目のサポート（個別対応）を実施している。</p> <p>《対面型の相談受付体制の整備》</p> <p>（再掲）資料 3-1-3-(4)-02</p> <p>「相談・レファレンス教員についての資料」</p> <p>https://www.kanazawa-it.ac.jp/kitlc/about/sl.html</p> <p>（再掲）資料 3-2-2-(1)-04</p> <p>「数学サポートアワーの案内」</p> <p>《ICT を活用した成績確認や学習相談等に関するシステムの整備》</p> <p>資料 3-2-2-(1)-05</p> <p>「学習支援システム manaba について」</p> <p>https://www.ictkanazawa.ac.jp/student_handbook_s/80p_school.pdf</p> <p>manaba により、小テストの採点確認や教材の配布などを円滑に行うことが可能となっている。</p> <p>《資格試験・検定試験等の支援体制の整備》</p> <p>資料 3-2-2-(1)-06</p>

	<p>「資格試験の年間スケジュールがわかる資料」 資料 3-2-2-(1)-07</p> <p>「自己開発センターの案内」 法人に設置された自己開発センターが、資格試験の案内、申し込み、対策講座などのサポートを行っている。 資料 3-2-2-(1)-08</p> <p>「学生全員へ配付する資格試験案内の冊子」 年度初めのオリエンテーション中に全員に配付される。</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>
<p>(2) (1)は、学生に利用されているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 利用されている</p> <p><input type="checkbox"/> 利用されていない</p>	<p>◇各種相談助言体制の利用状況（実績・相談対応例等）がわかる資料</p> <p>《担任制・指導教員制の整備》 資料 3-2-2-(2)-01</p> <p>「学生面談の記録サンプル（H30 年度 T2）」 各担任がそれぞれで、学生や保護者等との対応を記録している。</p> <p>《オフィスアワーの整備・対面型の相談受付体制の整備》 資料 3-2-2-(2)-02</p> <p>「数学サポートアワー利用者の指導記録」 利用時に担当教員が「学習支援記録書」を作成・保管し、支援の充実につなげている。平成31年4月中には昨年度未修得単位の指導を受ける学生が12名、それ以外の質問に10名が利用している。</p> <p>《ICT を活用した成績確認や学習相談等に関するシステムの整備》 資料 3-2-2-(2)-03</p> <p>「白山麓キャンパス manaba システム利用科目リスト」 《資格試験・検定試験等の支援体制の整備》 資料 3-2-2-(2)-04</p> <p>「高専生資格対策講座 受講データ」</p>
<p>(3) 学習支援に関して学生のニーズを把握するための制度があるか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p><input type="checkbox"/> 担任制・指導教員制の導入</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 学生との懇談会</p> <p><input type="checkbox"/> 意見投書箱</p>	<p>◇制度がわかる資料</p> <p>資料 3-2-2-(3)-01</p> <p>「学園協議会規則」 学園協議会は、高専・金沢工業大学の学生代表者と高専・大学・法人の代表者が参加し、議論する場となって</p>

<input type="checkbox"/> その他	いる。 ◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。
(4) (3)は、有効に機能しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 機能している <input type="checkbox"/> 機能していない	◇制度の機能状況がわかる資料 資料 3-2-2-(4)-01 「学園協議会開催の記事」 資料 3-2-2-(4)-02 「学園協議会での学生からの要望と対応」 高専学生の代表である学生会の学生が参加し、要望を出しており、それに高専や法人の担当者が返答・対応している。
観点 3-2-③ 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等を適切に行うことができる体制が整備されており、必要に応じて支援が行われているか。	
【留意点】 ○ 障害者差別解消法への対応については、学校独自の取組のほか、設置法人が当該学校を対象として対応しているものについても、資料として提示すること。 ○ (10)については、必須入力欄ではないことに留意し、該当する取組が行われている場合のみ、「行っている」にチェック■し、右欄にそれに関して記述すること。	
関係法令	教育基本法第4条第2項（教育の機会均等） 障害者差別解消法第5条（社会的障壁の除去の実施についての必要かつ合理的な配慮に関する環境の整備）及び第7条（行政機関等における障害を理由とする差別の禁止）又は第8条（事業者における障害を理由とする差別の禁止）第9条～11条 ※障害者差別解消法とは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成二十五年法律第六十五号）」の略称のこと。
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 留学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇整備状況がわかる資料 資料 3-2-3-(1)-01 「国際高等専門学校学則 第41条」 なお、本校には現在外国人留学生は在籍しておらず、この観点に記す個別の対応は、日本語が十分ではない帰国子女を対象としたものである。 資料 3-2-3-(1)-02 「留学生や帰国子女を対象にした授業科目がわかる資料」 https://www.ict-

	<p>kanazawa.ac.jp/curriculum/s/curriculum_s.pdf (再掲) 資料 2-2-1-(4)-01 「【別紙様式】担当教員一覧表等」 外国人教員及び海外経験のある日本人教員を多く配置している。</p>
<p>(2) (1)の体制において、留学生の支援を必要に応じて行っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない</p>	<p>◇留学生を支援する取組（留学生指導教員の配置、留学生チューターの配置等）がわかる資料 資料 3-2-3-(2)-01 「寮での学習支援者を記した資料」 (再掲) 資料 2-2-1-(4)-01 「【別紙様式】担当教員一覧表等」 白山麓キャンパスの夜の学習時間であるラーニングセッションには、「担当教員一覧表等」の4「年間を通じて授業を担当しない教員の専門分野と過去の担当授業科目」に示すように、英語で指導できるラーニングメンター4名が配置され、留学生の学習をサポートする体制が取られている。 資料 3-2-3-(2)-02 「留学生の支援者がわかる資料」 留学生の生活支援のため、留学生と支障なく会話できる語学能力をもつ事務員を配置している。</p> <p>◇支援の実施状況がわかる資料 資料 3-2-3-(2)-03 「留学生に関する情報共有シート」</p>
<p>(3) 編入学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。 <input type="checkbox"/> 整備している <input checked="" type="checkbox"/> 整備していない</p>	<p>◇整備状況がわかる資料 該当する学生がいないため。</p>
<p>(4) (3)の体制において、編入学生の支援を必要に応じて行っているか。 <input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 行っていない</p>	<p>◇編入学生を支援する取組がわかる資料</p> <p>◇入学前の指導を行っている場合には、指導スケジュール、指導内容等が記載された資料</p> <p>◇入学後に補習授業や学習相談等を行っている場合には、実施状況及びその内容（担当教員、実施科目、対象者別実施回数、使用教材等。）</p>

	<p>◇支援の実施状況がわかる資料</p>
<p>(5) 社会人学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>整備している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>整備していない</p>	<p>◇整備状況がわかる資料</p> <p>該当する学生がないため。</p>
<p>(6) (5)の体制において、社会人学生の支援を必要に応じて行っているか。</p> <p><input type="checkbox"/>行っている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>行っていない</p>	<p>◇社会人学生を支援する取組（情報提供（電子メール、ウェブサイト等。))がわかる資料</p> <p>◇社会人学生に対する学習相談の制度が把握できる資料（オフィスアワー一覧表、配付プリントの該当箇所等。)</p> <p>◇支援の実施状況がわかる資料</p>
<p>(7) 障害のある学生の学習及び生活に対する支援体制を整備しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>整備している</p> <p><input type="checkbox"/>整備していない</p>	<p>◇整備状況がわかる資料</p> <p>資料 3-2-3-(7)-01 「障害者支援組織のメンバーがわかる資料」</p> <p>資料 3-2-3-(7)-02 「障害等による支援が必要な学生への支援フロー図」</p> <p>資料 3-2-3-(7)-03 「教職員への周知がわかる資料」 教職員で共有が必要な情報は、教員会議などで周知している。</p>
<p>(8) (7)の体制において、障害のある学生の支援を必要に応じて行っているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>行っている</p> <p><input type="checkbox"/>行っていない</p>	<p>◇障害のある学生を支援する取組（ノートテーカー、チューターの配置）がわかる資料</p> <p>資料 3-2-3-(8)-01 「障害者への対応・対策への取り組みがわかる資料」</p> <p>◇支援の実施状況がわかる資料</p> <p>資料 3-2-3-(8)-02 「障害のある学生への備品貸与の資料」</p>
<p>(9) 障害者差別解消法第5条及び第7条又は第8条（第9条、第10条、第11条の関係条項も含む。）に対応しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>対応している</p>	<p>◇対応状況がわかる資料</p> <p>（再掲）資料 3-1-1-(10)-01 「白山麓キャンパス校舎のバリアフリー設備がわかる資料」</p>

<input type="checkbox"/> 対応していない	(再掲) 資料 3-2-3-(8)-01 「障害者への対応・対策への取り組みがわかる資料」
(10) 上記以外の特別な支援を行っているか。 <input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 行っていない	◆左記について、該当する取組があれば、資料を基に記述する。
観点 3-2-④ 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。	
【留意点】なし。	
関係法令	(法) 第 12 条 学校保健安全法第 8 条、第 13 条
観点の自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■) 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生の生活や経済面における指導・相談・助言等の体制に関し、どのように整備しているか。(該当する選択肢にチェック■する。) <input type="checkbox"/> 学生相談室 <input checked="" type="checkbox"/> 保健センター <input checked="" type="checkbox"/> 相談員やカウンセラーの配置 <input checked="" type="checkbox"/> ハラスメント等の相談体制 <input checked="" type="checkbox"/> 学生に対する相談の案内等 <input checked="" type="checkbox"/> 奨学金 <input type="checkbox"/> 授業料減免 <input checked="" type="checkbox"/> 特待生 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急時の貸与等の制度 <input type="checkbox"/> その他	◇それぞれの体制の整備状況がわかる資料 (生活指導の体制、指導内容、組織図、関連規程、委員会等。) ≪保健センター≫ 資料 3-2-4-(1)-01 「扇が丘診療所の案内」 (再掲) 資料 3-1-1-(4)-07 「KIT イノベーションハブ平面図 (100 号館)」 白山麓キャンパスには、校舎に隣接した KIT イノベーションハブの 1 階に保健室が設置されている。 ≪相談員やカウンセラーの配置≫ 資料 3-2-4-(1)-02 「カウンセリングセンターの案内」 法人に設置されたカウンセリングセンターに、高専担当のカウンセラーが配置されている。なお、白山麓キャンパスには週に 1 度、カウンセリングセンターのカウンセラーが出向し、学生へ対応できる体制をとっている。 資料 3-2-4-(1)-03 「金沢工業大学カウンセリングセンター規程」 ≪ハラスメント等の相談体制≫ 資料 3-2-4-(1)-04 「ハラスメント対応の教員がわかる資料」 資料 3-2-4-(1)-05 「キャンパス・ハラスメントへの対応に関する案内」 ≪奨学金≫ 資料 3-2-4-(1)-06 「奨学制度についての案内」

	<p>資料 3-2-4-(1)-07 「奨学金説明会の案内」 なお、1年生に関しては、入学時に保護者と共に説明の機会を設けている。 《特待生》 資料 3-2-4-(1)-08 「国際高等専門学校特待生規程」 平成 29 年度以前入学生に適用される。 (再掲) 資料 3-2-4-(1)-06 「奨学制度についての案内」 資料 3-2-4-(1)-09 「国際高等専門学校特別奨学生給付規程」 平成 30 年度以降入学生に適用される。 資料 3-2-4-(1)-10 「リーダーシップアワード奨学制度の案内」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/student_handbook_s/91p_office.pdf 《緊急時の貸与等の制度》 資料 3-2-4-(1)-11 「学校法人金沢工業大学奨学支援規程」</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>
<p>(2) 健康診断及び健康相談・保健指導を定期的に行っているか。 ■実施している □実施していない</p>	<p>◇各取組の実施状況がわかる資料 資料 3-2-4-(2)-01 「定期健診スケジュール」 資料 3-2-4-(2)-02 「健康相談を行う扇が丘診療所について記した規程」 資料 3-2-4-(2)-03 「扇が丘診療所の利用状況」</p>
<p>(3) (2) 以外で、(1) の体制に基づいた学生の生活や経済面における指導・相談・助言等の活動が実際に学生に利用されているか。 ■利用されている □利用されていない</p>	<p>◇相談実績（相談・対応例）、各体制に係る委員会等の実施状況がわかる資料 資料 3-2-4-(3)-01 「カウンセリングセンター 対応集計」</p> <p>ハラスメントに関しては、近年相談がないためここには記さない。</p>

	<p>◇奨学金等の利用状況がわかる資料</p> <p>資料 3-2-4-(3)-02</p> <p>「2018 年度奨学生数集計表」</p> <p>資料 3-2-4-(3)-03</p> <p>「リーダーシップアワード奨学生数集計表」</p>
<p>観点 3-2-⑤ 就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制が整備され、機能しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 資格試験や検定試験のための補習授業や学習相談を行っている場合には、担当教員、受講者数、実施科目、対象者別実施回数、使用教材、配布プリント等、概要がわかる資料を根拠資料として提示すること。また、資格試験・検定試験の受験者数、合格者数等の実績から機能しているかを分析すること。</p> <p>○ 資格取得による単位修得の認定を行っている場合には、関連規程、単位認定実績等を根拠資料として提示すること。</p> <p>○ 外国留学に関する手続きの支援、単位認定、交流協定の締結等を行っている場合には、内容が把握できる資料や関連規程、留学実績等を根拠資料として提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇体制の整備状況がわかる資料</p> <p>（再掲）資料 2-1-3-(1)-03</p> <p>「国際高等専門学校進路指導委員会規程」</p> <p>資料 3-2-5-(1)-01</p> <p>「進路指導委員会のメンバーがわかる資料」</p> <p>資料 3-2-5-(1)-02</p> <p>「進路・就職等の事務担当部署を定めた規程」</p>
<p>(2) (1)の体制の下、就職や進学等の進路指導を含めたキャリア教育に関して、学校としてどのような取組を行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p>■キャリア教育に関する研修会・講演会の実施</p> <p>□進路指導用マニュアルの作成</p> <p>■進路指導ガイダンスの実施</p> <p>□進路指導室</p> <p>■進路先（企業）訪問</p> <p>■進学・就職に関する説明会</p> <p>□資格試験や検定試験のための補習授業や学習相談</p> <p>■資格取得による単位修得の認定</p> <p>■外国留学に関する手続きの支援、単位認定、交流協定の締結等</p>	<p>◇左記でチェック■した取組状況がわかる資料</p> <p>《キャリア教育に関する研修会・講演会の実施》</p> <p>資料 3-2-5-(2)-01</p> <p>「キャリア教育に関する講演会・研修会一覧」</p> <p>《進路指導ガイダンスの実施》</p> <p>資料 3-2-5-(2)-02</p> <p>「進路指導ガイダンスの内容がわかる資料」</p> <p>《進路先（企業）訪問》</p> <p>資料 3-2-5-(2)-03</p> <p>「訪問先の企業がわかる資料」</p> <p>《進学・就職に関する説明会》</p> <p>資料 3-2-5-(2)-04</p> <p>「高専3年生対象金沢工業大学編入学説明会の案内」</p>

<p>□その他</p>	<p>例年、併設校の金沢工業大学への編入生が多いため、編入後に互換対象となる選択科目の履修申請も考慮し、3年次に編入学の説明会を実施している。</p> <p>資料 3-2-5-(2)-05 「企業による説明会の実施がわかる資料」</p> <p>資料 3-2-5-(2)-06 「4年生保護者対象進路説明会の案内」 進路決定には保護者の理解も重要であるため、保護者への説明の機会を設けている。</p> <p>《資格取得による単位取得の認定》</p> <p>資料 3-2-5-(2)-07 「資格取得による単位認定についての資料」 《外国留学に関する手続きの支援、単位認定、交流協定の締結等》</p> <p>資料 3-2-5-(2)-08 「海外留学に関する支援がわかる資料」</p> <p>資料 3-2-5-(2)-09 「ニュージーランド・オタゴポリテクニクとの合意書」</p> <p>資料 3-2-5-(2)-10 「オタゴポリテクニク留学生成績一覧表（平成30年度）」</p> <p>資料 3-2-5-(2)-11 「NZ（オタゴポリテクニク）留学 修得単位互換認定科目一覧」</p> <p>資料 3-2-5-(2)-12 「アメリカ・セントマイケルズ大学との協定覚書」</p> <p>資料 3-2-5-(2)-13 「シンガポール理工学院との合意書」</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、具体的な内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>
<p>(3) (2) の取組が機能しているか。</p> <p>■機能している</p> <p>□機能していない</p>	<p>◇それぞれの取組の（活用）実態がわかる資料</p> <p>《キャリア教育に関する研修会・講演会の実施》及び 《進路指導ガイダンスの実施》</p> <p>資料 3-2-5-(3)-01 「キャリア・進路に関する教育の記録がわかる資料」 《進路先（企業）訪問》 （再掲）資料 1-1-3-(1)-08 「訪問先企業からの意見がわかる資料」</p>

	≪進学・就職に関する説明会≫ 資料 3-2-5-(3)-02 「3年生対象金沢工業大学編入学説明会の報告」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/2018/11/08/5460/ 資料 3-2-5-(3)-03 「企業による説明会での成果がわかる資料」 資料 3-2-5-(3)-04 「4年生保護者対象進路説明会の実施概要がわかる資料」 ≪資格取得による単位取得の認定≫ 資料 3-2-5-(3)-05 「課題学修単位修得者一覧」 ≪外国留学に関する手続きの支援、単位認定、交流協定の締結等≫ 資料 3-2-5-(3)-06 「海外提携校との交流実績がわかる資料」
観点3-2-⑥ 学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。	
【留意点】なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生の課外活動に対する支援体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	◇課外活動に関する規程、組織図、施設の整備状況がわかる資料 資料 3-2-6-(1)-01 「国際高等専門学校学生会会則」 資料 3-2-6-(1)-02 「国際高等専門学校課外活動細則」 資料 3-2-6-(1)-03 「金沢キャンパス クラブハウス棟平面図（35号館）」 （再掲）資料 3-1-1-(4)-02 「金沢キャンパス体育館平面図（13号館）」 （再掲）資料 3-1-1-(4)-05 「白山麓キャンパス体育館平面図（102号館）」
(2) (1)の体制において、責任の所在が明確になっているか。 ■なっている □なっていない	◇(1)の体制において、責任の所在がわかる資料 資料 3-2-6-(2)-01 「各課外活動の責任者がわかる資料」

<p>(3) 学校としての支援活動の内容からみて、(1)の体制が機能しているか。</p> <p>■機能している</p> <p>□機能していない</p>	<p>◇課外活動に対する支援活動の内容がわかる資料</p> <p>資料 3-2-6-(3)-01</p> <p>「課外活動の支援状況がわかる資料」</p> <p>資料 3-2-6-(3)-02</p> <p>「学生会からの部活動予算がわかる資料」</p> <p>資料 3-2-6-(3)-03</p> <p>「育友会からの支援がわかる資料」</p>
<p>観点 3-2-⑦ 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p> <p>□学生寮を整備していないので、該当しない（→この場合は、(1)以下の記入は不要）</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学生寮を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇整備状況がわかる資料</p> <p>資料 3-2-7-(1)-01</p> <p>「白山麓キャンパス学生寮の設置がわかる資料」</p> <p>白山麓キャンパスでは1・2年生が全寮制での修学・生活となっている。平成30年度は1年生のみが在籍している。</p>
<p>(2) 生活の場として整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇生活支援の内容がわかる資料（談話室、補食室等の整備状況等。）</p> <p>資料 3-2-7-(2)-01</p> <p>「白山麓キャンパス 寮の設備がわかる資料」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/campuslife/accommodation/</p> <p>資料 3-2-7-(2)-02</p> <p>「寮での生活支援者を定めた資料」</p>
<p>(3) 勉学の場として整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇学習支援の内容がわかる資料（自習室の整備状況、自習時間の設定状況等の整備面での工夫等。）</p> <p>資料 3-2-7-(3)-01</p> <p>「夜の学校ラーニングセッションについての資料」</p> <p>（再掲）資料 3-2-3-(2)-01</p> <p>「寮での学習支援者を記した資料」</p> <p>学生の学習場所は寮内ではなく、校舎棟内のオープンスペースや図書室エリアを含め全面を利用することができる環境を提供している。学生寮と校舎は渡り廊下で接</p>

	<p>続されており、校舎棟と学生寮間は 50m 未満の距離にあり、寮内と変わらない感覚で利用することができる。平日、夕食事時間後 19:30～21:30 は、校舎内のリビングコモンズにてラーニングセッション（夜の学習時間）が実施され、外国人教員のラーニングメンターが対応する。また、平日以外にも校舎は夜 23:00 まで利用可能としている。</p>
<p>(4) (2) (3)について、有効に機能しているか。</p> <p>■機能している □機能していない</p>	<p>◇入寮状況がわかる資料 資料 3-2-7-(4)-01 「H30 年度白山麓キャンパス寮の部屋割」</p> <p>◇勉強の場としての活用実績がわかる資料 資料 3-2-7-(4)-02 「ラーニングセッション実施・学生出席状況」</p>
<p>(5) 管理・運営体制を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>◇学生寮の管理規程等の資料 資料 3-2-7-(5)-01 「国際高等専門学校学生寮規程」 資料 3-2-7-(5)-02 「学生寮・施設利用の手引き」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/student_handbook_s/101p_guidelines.pdf</p>
<p>3-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>国際理工学科の学生を対象とした、リーダーシップアワード奨学制度は、国連が推進する SDGs の「誰一人残さない」という理念を踏まえ、社会的課題への取り組み、リーダーシップの発揮、海外企業でのインターンシップや国際会議参加といった海外コーオプ教育など、多様な活動を考慮し選考される本校独自の奨学金制度である。（観点 3-2-④-(1)参照）。</p>	

基準 3

<p>優れた点</p>
<p> </p>
<p>改善を要する点</p>
<p> </p>

基準4 財務基盤及び管理運営

<p>評価の視点</p> <p>4-1 学校の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しており、活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されていること。また、学校の財務に係る監査等が適正に実施されていること。</p>	
<p>観点4-1-1-① 学校の目的に沿った教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できるよう校地、校舎等の資産を保有しているか、経常的な収入が確保できているか、債務超過や支出超過の状態がある場合、運営上問題とならないものか等の状況について分析すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第27条の2</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 過去5年間の貸借対照表等による財務状態は適切な状況となっているか。</p> <p>■なっている</p> <p>□なっていない</p>	<p>◇過去5年間の貸借対照表等の財務諸表</p> <p>資料 4-1-1-(1)-01 「学校法人金沢工業大学 貸借対照表」</p> <p>資料 4-1-1-(1)-02 「学校法人金沢工業大学 事業活動収支計算書」</p> <p>資料 4-1-1-(1)-03 「学校法人金沢工業大学 資金収支計算書」</p> <p>◇長期未払金、長期借入金がある場合は、その内容を確認できる資料</p> <p>資料 4-1-1-(1)-04 「学校法人金沢工業大学 長期未払金・長期借入金」</p> <p>◇臨時利益又は臨時損失が計上されている場合は、その内容を確認できる資料</p> <p>該当なし</p>
<p>(2) 校地、校舎等の資産を保有しているか。</p> <p>■保有している</p> <p>□保有していない</p>	<p>◇その内容を確認できる資料</p> <p>資料 4-1-1-(2)-01 「学校法人金沢工業大学 財産目録」</p>
<p>(3) 過去5年間に於いて運営費交付金、授業料、入学料、検定料等の経常的な収入を確保しているか。</p> <p>□確保している</p>	<p>◇過去5年間の運営費交付金、授業料、入学料、検定料等の収入状況</p> <p>資料 4-1-1-(3)-01</p>

<p>■確保できない年があった</p>	<p>「国際高等専門学校 過去5年間の経常費補助金、授業料、検定料等の収入状況」</p> <p>◆確保できない年があった場合は、実状を踏まえて、資料を基に記述する。</p> <p>高専の授業料収入は減少が続いている。不足する資金については法人より助成することにより教育研究活動を維持している。</p> <p>資料 4-1-1-(3)-02</p> <p>「国際高等専門学校 資金収支計算書」</p>
<p>(4) 過去5年間の収支状況において支出超過となっていないか。</p> <p><input type="checkbox"/> 支出超過となっていない</p> <p>■支出超過となった年があった</p>	<p>◇過去5年間の資金収支計算書及び消費収支計算書 (再掲) 資料 4-1-1-(3)-02</p> <p>「国際高等専門学校 資金収支計算書」</p> <p>資料 4-1-1-(4)-01</p> <p>「国際高等専門学校 事業活動収支計算書」</p> <p>◆支出超過となった年があった場合は、実状を踏まえて、資料を基に記述する。</p> <p>高専の収支状況は支出超過が続いている。不足資金については法人より助成することにより教育研究活動を維持している。</p> <p>(再掲) 資料 4-1-1-(3)-02</p> <p>「国際高等専門学校 資金収支計算書」</p>
<p>観点4-1-1-② 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 収支に係る方針、計画等を策定しているか。</p> <p>■策定している</p> <p><input type="checkbox"/> 策定していない</p>	<p>◇収支に係る方針や計画策定に関する予算関連規程等</p> <p>資料 4-1-2-(1)-01</p> <p>「平成30年度当初予算」</p> <p>◇予算配分や収支に係る方針、計画等がわかる資料 (再掲) 資料 4-1-2-(1)-01</p> <p>「平成30年度当初予算」</p>
<p>(2) (1)を関係者(教職員等)へ明示しているか。</p> <p>■明示している</p>	<p>◇予算の関係者(教職員等)への明示状況を把握できる資料</p>

<input type="checkbox"/> 明示していない	(再掲) 資料 4-1-2-(1)-01 「平成 30 年度当初予算」
観点 4-1-1-③ 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対しての資源配分を、学校として適切に行う体制を整備し、行っているか。	
<p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 予算配分の方針が定められ、その方針に則り実際の予算配分が行われているか、プロセス（手続きの流れ）の適切性も含めて分析すること。 ○ 予算の配分状況と、その実績（執行状況）を対比させて分析すること。 ○ 校長裁量経費等の重点配分経費の配分基準等の策定状況（手続き、経路、決定機関等。）についても併せて分析すること。 	
関係法令	(設) 第 27 条の 2
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校の目的を達成するために、教育研究活動に対して適切な資源配分を決定する際、明確なプロセスに基づいて行っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<ul style="list-style-type: none"> ◇予算配分実績(教育経費、研究経費、施設設備費の配分実績) 資料 4-1-3-(1)-01 「国際高等専門学校 教育経費、研究費、施設設備費の配分実績 教育研究経費支出内訳」 資料 4-1-3-(1)-02 「国際高等専門学校 教育経費、研究費、施設設備費の配分実績 施設設備整備状況」 ◇校長裁量経費等の重点配分経費を設定している場合は、その資源配分が把握できる資料 資料 4-1-3-(1)-03 「国際高等専門学校校長表彰・褒章規程」 ◇予算関連規程等 資料 4-1-3-(1)-04 「学校法人金沢工業大学予算編成規程」 資料 4-1-3-(1)-05 「予算編成審議会規則」 資料 4-1-3-(1)-06 「予算執行規程」 ◇予算配分に係る審議状況がわかる資料（議事録等） 資料 4-1-3-(1)-07

	<p>「学校法人金沢工業大学 予算配分に係る審議状況 予算編成審議会議事録」</p> <p>◇施設・設備の整備計画の全体像がわかる資料（学内全体のマスタープラン等。）</p> <p>資料 4-1-3-(1)-08</p> <p>「学校法人金沢工業大学 施設・設備の整備計画 平成 30 年度施設設備事業計画」</p>
<p>(2) 資源配分が、4-1-②の収支に係る方針、計画と整合性を有しているか。</p> <p>■整合性がある</p> <p>□整合性がない</p>	<p>◆資源配分と収支に係る方針、計画との整合性、執行状況との対応について、資料を基に記述する。その際、資源配分の決定プロセスの整合性についても言及する。</p> <p>高専の収入は安定しているとはいえないが、法人として教育研究活動を維持していくための助成を行っている。その際の資源配分の決定プロセスは諸規程により適正に決定している。</p> <p>（再掲）資料 4-1-1-(3)-02</p> <p>「国際高等専門学校 資金収支計算書」</p> <p>（再掲）資料 4-1-3-(1)-04</p> <p>「学校法人金沢工業大学予算編成規程」</p>
<p>(3) 資源配分の内容について、関係者（教職員等）に明示しているか。</p> <p>■明示している</p> <p>□明示していない</p>	<p>◇予算の関係者（教職員等）への明示状況を把握できる資料</p> <p>（再掲）資料 4-1-2-(1)-01</p> <p>「平成 30 年度当初予算」</p>
<p>観点 4-1-④ 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。また、財務に係る監査等が適正に行われているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 設置者の説明責任を果たすという観点から、財務書類の公表状況について分析すること。</p> <p>○ 会計監査の実施状況についても分析すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>独立行政法人通則法第 38 条、第 39 条 私立学校法第 47 条 私立学校振興助成法第 14 条 その他財務諸表に関する各種法令等 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律施行令第 12 条 その他情報公開に関する法令等、それぞれの設置形態別に定められた法令 私立学校法第 37 条第 3 項 私立学校振興助成法第 14 条第 3 項 地方自治法第 199 条 その他会計監査等に関する各種法令等</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 設置者は、法令等に基づき、財務諸表等を作成・公</p>	<p>◇作成・公表状況がわかる資料</p>

<p>表しているか。</p> <p>■作成・公表している</p> <p>□作成・公表していない</p>	<p>資料 4-1-4-(1)-01</p> <p>「平成 29 年度決算」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/status/</p>
<p>(2) 財務に係る監査等を実施しているか。</p> <p>■実施している</p> <p>□実施していない</p>	<p>◇学内会計監査規程（科学研究費助成事業等の外部資金に関する監査規程も含む。）</p> <p>資料 4-1-4-(2)-01</p> <p>「学校法人金沢工業大学内部監査規則」</p> <p>◇外部監査、学内監査の監査報告書、国立高等専門学校の場合は、国立高等専門学校間の相互監査報告書</p> <p>資料 4-1-4-(2)-02</p> <p>「独立監査人の監査報告書」</p> <p>資料 4-1-4-(2)-03</p> <p>「監査報告書」</p>
<p>4-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>該当なし</p>	
<p>評価の視点</p> <p>4-2 学校の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。また、外部の資源を積極的に活用していること。</p>	
<p>観点 4-2-① 管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 観点 2-1-③の教育に係る組織等を除き、管理運営に係る体制について、分析すること。 ○ 組織図については、観点 2-1-③の教育に係る組織等を含む、学校全体の教育研究及び管理運営全体がわかるものの提示が望ましい。 ○ 議事録又は議事要旨等については、過去 1 年分提示すること。 ○ 役割分担が適切であるとは、各種委員会及び事務組織等がそれぞれの役割分担において責任を有しつつ協力して円滑な管理運営の実現に資する状況にあることを想定している。 	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第 120 条第 3 項 (施)第 175 条 (設)第 10 条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 管理運営体制に関する規程等を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇管理運営に関する諸規程、整備状況がわかる資料</p> <p>（再掲）資料 2-1-3-(1)-07</p> <p>「令和元年度法人組織表」</p>

	<p>資料 4-2-1-(1)-01 「学事運営組織」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/education_information/ir_02.pdf 資料 4-2-1-(1)-02 「学校法人金沢工業大学管理規則 第6章高専」 資料 4-2-1-(1)-03 「国際高等専門学校学則 第33条～35条」 (再掲) 資料 2-1-3-(1)-10 「H30 教職員校務分担表」 (再掲) 資料 1-1-1-(2)-06 「国際高等専門学校学務会議規程」</p>
<p>(2) 委員会等の体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない</p>	<p>◇諸規程、整備状況がわかる資料（組織図等） (再掲) 資料 4-2-1-(1)-01 「学事運営組織」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/education_information/ir_02.pdf (再掲) 資料 2-1-3-(1)-01 「国際高等専門学校教務委員会規程」 (再掲) 資料 2-1-3-(1)-02 「国際高等専門学校厚生補導委員会規程」 (再掲) 資料 2-1-3-(1)-03 「国際高等専門学校進路指導委員会規程」 (再掲) 資料 1-1-1-(2)-05 「ICT 教育評価委員会規程」 (再掲) 資料 2-1-3-(1)-04 「国際高等専門学校国際交流委員会規程」 資料 4-2-1-(2)-01 「キャンパス・ハラスメント防止委員会に関する資料」</p>
<p>(3) 校長、主事等の役割分担が明確になっているか。 <input checked="" type="checkbox"/> なっている <input type="checkbox"/> なっていない</p>	<p>◇役割分担がわかる資料 (再掲) 資料 4-2-1-(1)-02 「学校法人金沢工業大学管理規則 第6章高専」 (再掲) 資料 4-2-1-(1)-03 「国際高等専門学校学則 第33条～35条」</p>
<p>(4) 事務組織の体制を規程等に基づき整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない</p>	<p>◇規程等、整備状況がわかる資料 (再掲) 資料 2-1-3-(1)-07 「令和元年度法人組織表」 資料 4-2-1-(4)-01</p>

	「事務の職務がわかる規程」
(5) 教員と事務職員等とが適切な役割分担の下、必要な連携体制を確保しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 確保している <input type="checkbox"/> 確保していない	◇規定等、教員と事務職員が構成員として構成されている会議体がわかる資料 (再掲) 資料 2-1-3-(1)-10 「H30 教職員校務分担表」
(6) (1)～(5)の体制の下、効果的な活動を行っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	◇活動状況がわかる資料（会議の開催回数、議事要旨等。） (再掲) 資料 2-1-3-(2)-01 「H30 会議実施状況表」 資料 4-2-1-(6)-01 「学務会議議事録」 資料 4-2-1-(6)-02 「教員会議議事録」 資料 4-2-1-(6)-03 「教務委員会議事録」 資料 4-2-1-(6)-04 「厚生補導委員会議事録」 資料 4-2-1-(6)-05 「進路指導委員会議事録」 資料 4-2-1-(6)-06 「ICT 教育評価委員会議事録」 資料 4-2-1-(6)-07 「国際高専安全委員会議事録」 資料 4-2-1-(6)-08 「国際交流委員会議事録」
観点 4-2-② 危機管理を含む安全管理体制が整備されているか。	
【留意点】なし。	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校として、責任の所在を明確にした危機管理を含む安全管理体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇規程等、整備状況がわかる資料 資料 4-2-2-(1)-01 「学校法人金沢工業大学安全衛生委員会規則」 (再掲) 資料 3-1-1-(8)-01 「学校法人金沢工業大学安全委員会規程」 (再掲) 資料 3-1-1-(8)-02 「安全委員会運営規程」

	<p>(再掲) 資料 3-1-1-(8)-04 「高専安全委員会の構成員がわかる資料」 安全管理体制については、観点 3-1-1-(8)と同様に法人の方針・管理のもとに、高専での安全管理を実施していく体制となっている。 資料 4-2-2-(1)-02 「学校法人金沢工業大学防火防災管理規則」 (再掲) 資料 3-1-1-(8)-06 「高専火元・安全責任者リスト」</p>
<p>(2) 危機管理マニュアル等を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない</p>	<p>◇危機管理マニュアル等の資料 資料 4-2-2-(2)-01 「大災害対策基本マニュアル」 資料 4-2-2-(2)-02 「金沢工業大学大地震対応ガイドブック」 資料 4-2-2-(2)-03 「救急処置の手順マニュアル」 マニュアルに関しては、金沢工業大学とキャンパスを共有しているため、同じものを利用する。 資料 4-2-2-(2)-04 「安全指針」 資料 4-2-2-(2)-05 「安全の手引き」</p>
<p>(3) (1) (2)に基づき、定期的に訓練を行うなど、危機に備えた活動を行っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない</p>	<p>◇訓練や講習会等の実施状況がわかる資料 資料 4-2-2-(3)-01 「訓練・講習会の実施状況がわかる資料」 資料 4-2-2-(3)-02 「学園からの県民一斉防災訓練の案内がわかる資料」 資料 4-2-2-(3)-03 「県民一斉防災訓練への参加がわかる資料」 資料 4-2-2-(3)-04 「避難訓練実施が確認できる資料①」 資料 4-2-2-(3)-05 「避難訓練実施が確認できる資料②」</p>
<p>観点 4-2-③ 外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。</p>	
<p>【留意点】 ○ 過去5年間の外部資金について、明確な獲得方策（獲得のための取組。）を有するか、十分な獲得実績があるか等について、分析すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	

<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 外部の財務資源（科学研究費助成事業による外部資金、受託研究、共同研究、受託試験、奨学寄附金、同窓会等からの寄付金等）を積極的に受入れる取組を行っているか。</p> <p>■行っている</p> <p>□行っていない</p>	<p>◇過去5年間の科学研究費助成事業による外部資金、受託研究、共同研究、受託試験、奨学寄附金、同窓会等からの寄付金等、外部の財務資源の受入れへの取組及び受入実績に関する資料</p> <p>《科研費》</p> <p>資料 4-2-3-(1)-01 「科学研究費助成事業 申請件数・採択件数」</p> <p>資料 4-2-3-(1)-02 「平成30年度科学研究費助成事業 継続課題一覧」</p> <p>《企業助成金》</p> <p>資料 4-2-3-(1)-03 「外部の財団（澁谷）からの助成金採択状況」</p> <p>《学生プロジェクト奨学寄附金》</p> <p>資料 4-2-3-(1)-04 「企業（玉田工業）からの資金提供がわかる資料」</p> <p>資料 4-2-3-(1)-05 「企業（別川製作所）からの資金による活動がわかる資料」</p> <p>《同窓会》</p> <p>資料 4-2-3-(1)-06 「同窓会（こぶし会）からの支援金（学生国際交流支援金）がわかる資料」</p> <p>高専学生が海外でのラーニングエクスプレスの活動に参加する際の支援を行っている。</p>
<p>(2) 公的研究費を適正に管理するシステムが整備されているか。</p> <p>■整備されている</p> <p>□整備されていない</p>	<p>◇管理体制がわかる資料（規程等）</p> <p>資料 4-2-3-(2)-01 「学校法人金沢工業大学研究支援機構規程」</p> <p>資料 4-2-3-(2)-02 「学校法人金沢工業大学受託・共同研究取扱規程」</p> <p>法人に設置された研究支援機構が、担当部署となっている。</p>
<p>観点4-2-④ 外部の教育資源を積極的に活用しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 高等専門学校の教育研究の基盤としての、地域や同窓会等を中心とする外部教育資源、又は退職技術者を含む企業人等の教育研究的資源の活用について分析すること。</p> <p>○ 「社会とともに次世代の技術者を育成する」協働教育の理念を実践する活動例について分析すること。</p>	

<p>○ 財務的資源については、観点4-2-③で分析し、ここでは教育資源、研究的資源について分析すること。</p> <p>○ 提示する資料の例としては、次のものを想定している。(全ての取組を求めているものではない。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高等教育機関の間で締結している学生・教員交流等、外部の機関の持つ教育力の活用例の資料(協定等を含む。) ・ 産学連携関係の共同研究や共同教育の実施例の資料 ・ 地域や同窓会等の有識者や経験者による授業、実習、課外活動等の指導支援に関する資料 ・ 地域にある教育設備(図書館、博物館等。)、体育施設の利用及び支援がわかる資料 ・ 地域の催事等を含む地域社会との交流体験実施例の資料 	
<p>観点の自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 外部の教育・研究資源を活用しているか。</p> <p>■活用している</p> <p>□活用していない</p>	<p>◇活用状況がわかる資料</p> <p>≪企業・企業人材の活用≫</p> <p>資料 4-2-4-(1)-01</p> <p>「外部人材(企業)を活用した教育活動の一覧」</p> <p>資料 4-2-4-(1)-02</p> <p>「企業人材による教育サポートがわかる資料」</p> <p>機械工学科4年生の「創造設計Ⅳ」で、企業の方々に学生の作品に対する技術審査を依頼している。</p> <p>資料 4-2-4-(1)-03</p> <p>「学生の企業見学先一覧」</p> <p>キャリアデザイン教育の一環で、毎年企業の見学を実施している。</p> <p>≪地域施設人材の活用・交流活動≫</p> <p>資料 4-2-4-(1)-04</p> <p>「地域施設・人材を活用した教育活動・交流活動がわかる一覧表」</p> <p>資料 4-2-4-(1)-05</p> <p>「地域施設との連携の一例がわかる資料(白嶺小中学校)」</p> <p>≪高等教育機関との協定・協力≫</p> <p>資料 4-2-4-(1)-06</p> <p>「海外の提携校がわかる資料」</p> <p>(再掲) 資料 3-2-5-(2)-12</p> <p>「アメリカ・セントマイケルズ大学との協定覚書」</p> <p>(再掲) 資料 3-2-5-(2)-13</p> <p>「シンガポール理工学院との合意書」</p> <p>(再掲) 資料 3-2-5-(2)-09</p> <p>「ニュージーランド・オタゴポリテクニクとの合意書」</p> <p>(再掲) 資料 3-2-5-(3)-06</p>

	<p>「海外提携校との交流実績がわかる資料」 資料 4-2-4-(1)-07</p> <p>「海外提携校との交流を示す資料」 この他、セントマイケルズ大学からは教育実習生の受け入れ、マラ工科大学からは大学院生のインターンシップ及び訪問教員の受け入れを実施している。</p> <p>(再掲) 資料 3-2-2-(1)-04</p> <p>「数学サポートアワーの案内」 数理工教育研究センター所属の金沢工業大学教員 4 名より、放課後に数学科目の学習サポートを受けている。</p>
<p>観点 4-2-⑤ 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組（スタッフ・ディベロップメント）が組織的に行われているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ ファカルティ・ディベロップメントに関連した教育の質の向上や授業の改善に関する教育支援者に対する取組は観点 2-4-③で分析するため、ここでは、スタッフ・ディベロップメント（以下「SD」という。）への取組を分析すること。</p> <p>○ SDとは、事務職員等のほか、教授等の教員や校長等の執行部に対し、教育研究活動等の効果的な運営を図るため、必要な知識及び技能を習得させ、その能力及び資質を向上させるための研修（管理運営等の研修）のことをいう。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第 10 条の 2</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) SD等を実施しているか。</p> <p>■実施している</p> <p>□実施していない</p>	<p>◇規程等の資料 (再掲) 資料 2-4-1-(1)-02 「FD/SD 実施方針」 資料 4-2-5-(1)-01 「SD の事務担当を示した規程」</p> <p>◇実施状況（参加状況等）がわかる資料 資料 4-2-5-(1)-02 「SD 研修会の参加実績がわかる資料」 資料 4-2-5-(1)-03 「SD 研修実施に関する報告」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/2018/09/28/4692/</p>
<p>4-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性</p>	

<p>や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>他の高等教育機関の教育力の活用の中でも、海外提携校との交流活動プログラムが充実しており、グローバル化社会に対応した教育環境・機会を提供している。(観点 4-2-④-1 参照)。</p>	
<p>評価の視点</p> <p>4-3 学校の教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を広く社会に提供していること。</p>	
<p>観点 4-3-① 学校における教育研究活動等の状況についての情報（学校教育法施行規則第 172 条の 2 に規定される事項を含む。）が公表されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 高等専門学校の教育研究活動の状況や、その活動の成果に関する情報を、わかりやすい表現やアクセスしやすい手段を用いて、社会に発信しているか分析すること。</p>	
関係法令	(施)第 172 条の 2、(施)第 165 条の 2、学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行について（通知）22 文科高第 236 号平成 22 年 6 月 16 日
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 教育情報を法令に従い適切に公表しているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p>■高等専門学校の教育上の目的及び学校教育法施行規則第 165 条の 2 第 1 項の規定により定める方針</p> <p>■教育研究上の基本組織</p> <p>■教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績</p> <p>■入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況</p> <p>■授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画</p> <p>■学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準</p> <p>■校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境</p> <p>■授業料、入学料その他の高等専門学校が徴収する費用</p> <p>■高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援</p>	<p>◇刊行物の該当箇所がわかる資料</p> <p>資料 4-3-1-(1)-01</p> <p>「教育情報の刊行物の該当箇所一覧表」</p> <p>◇【別紙様式】ウェブサイト掲載項目チェック表</p>
<p>(2) 特に、高等専門学校の教育上の目的及び学校教育法施行規則第 165 条の 2 第 1 項の規定により定める方針について、学校内の構成員への周知を行っているか。</p>	<p>◇周知状況がわかる資料</p> <p>資料 4-3-1-(2)-01</p> <p>「3 ポリシーの記載された学生便覧（H29 年度以前入学生</p>

<p>■行っている □行っていない</p>	<p>用)』 資料 4-3-1-(2)-02 「3 ポリシーの記載された学生便覧 (H30 年度以降入学生用)』 資料 4-3-1-(2)-03 「三つの方針について」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/about/education_information/ir_01.pdf 資料 4-3-1-(2)-04 「ポリシーを周知するオリエンテーション中の HR 指示書」 資料 4-3-1-(2)-05 「学生へのポリシー周知資料」 (再掲) 資料 2-4-1-(2)-06 「3つのポリシー-FD/SD 研修」 資料 4-3-1-(2)-06 「教職員への周知に関するアンケート結果」</p>
---------------------------	--

4-3 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

該当なし

基準 4

<p>優れた点</p>
<p>改善を要する点</p>

基準5 準学士課程の教育課程・教育方法

<p>評価の視点</p> <p>5-1 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準等が適切であること。</p>	
<p>観点5-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 観点1-2-②の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえた授業科目の配置となっているか分析すること。</p>	
<p>関係法令 (設)第15条、第16条、第17条、第17条の2</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。</p> <p>■配置している</p> <p>□配置していない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◇カリキュラム一覧表、授業科目系統図等の授業科目配置状況がわかる資料</p> <p>資料 5-1-1-(1)-01 「カリキュラムの基本構成」</p> <p>資料 5-1-1-(1)-02 「電気電子工学科カリキュラム全体像（H26 年度以前入学生適用）」</p> <p>資料 5-1-1-(1)-03 「機械工学科カリキュラム全体像（H26 年度以前入学生適用）」</p> <p>資料 5-1-1-(1)-04 「グローバル情報工学科カリキュラム全体像（H26 年度以前入学生適用）」</p> <p>資料 5-1-1-(1)-05 「電気電子工学科カリキュラム全体像（H27 年度以降学生適用）」</p> <p>資料 5-1-1-(1)-06 「機械工学科カリキュラム全体像（H27 年度以降学生適用）」</p> <p>資料 5-1-1-(1)-07 「グローバル情報学科カリキュラム全体像（H27 年度以降学生適用）」</p> <p>資料 5-1-1-(1)-08 「国際理工学科 教育課程の編成方針(カリキュラムポリシー)」</p> <p>資料 5-1-1-(1)-09</p>

	<p>「国際理工学科 Curriculum」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/curriculum/s/</p>
<p>(2) 一般教育の充実に配慮しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 配慮している <input type="checkbox"/> 配慮していない</p>	<p>◇配慮していることがわかる資料 資料 5-1-1-(2)-01 「一般科目・複数教員授業 (H30)」 金沢、白山麓の両キャンパスとも数学・理科・英語科目に複数人の教員を充て、少人数クラスでの授業による理解度向上、チームティーチング体制による授業内サポートの充実、科目内の授業内容に合わせた教員配置による教育内容の充実を図っている。 資料 5-1-1-(2)-02 「カリキュラム別理科学目単位表」 国際理工学科では、物理・化学の単位数の増加、生物科目の追加による理科系科目の充実を図っている。</p>
<p>(3) 進級に関する規定を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない</p>	<p>◇進級に関する規定の整備状況がわかる資料 資料 5-1-1-(3)-01 「国際高等専門学校学則 (平成 29 年度以前入学生適用) 第 12 条」 資料 5-1-1-(3)-02 「国際高等専門学校学則 (平成 30 年度以降入学生適用) 第 12 条」 資料 5-1-1-(3)-03 「進級に関する要件が記載された規定」</p>
<p>(4) 1 年間の授業を行う期間を定期試験等の期間を含め、35 週確保しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 確保している <input type="checkbox"/> 確保していない</p>	<p>◇35 週が確保されている状況が確認できる資料 (学年暦等。) 資料 5-1-1-(4)-01 「平成 30 年度学年暦 (1 年次)」 資料 5-1-1-(4)-02 「平成 30 年度学年暦 (2～5 年次)」 資料 5-1-1-(4)-03 「平成 30 年度学年暦 (金沢キャンパス)」 資料 5-1-1-(4)-04 「平成 30 年度学年暦 (白山麓キャンパス)」</p>
<p>(5) 特別活動を 90 単位時間以上実施しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 実施している <input type="checkbox"/> 実施していない</p>	<p>◇特別活動の実施状況がわかる資料 (学年暦等。) 資料 5-1-1-(5)-01 「特別活動時間を示した時間割」 資料 5-1-1-(5)-02</p>

	<p>「平成28年度 特別活動実施記録」 資料 5-1-1-(5)-03</p> <p>「平成29年度 特別活動実施記録」 資料 5-1-1-(5)-04</p> <p>「平成30年度 特別活動実施記録」</p> <p>平成30年度金沢キャンパスの2～5年生の特別活動の時間は、時間割上金曜の7限とし、この時間を基本として実施することとしているが、実施内容に応じて別の日程で行う場合もある（なお、国際理工学科を除く電気電子工学科・機械工学科・グローバル情報学科の3学科では4・5年生も実施対象としている）。白山麓キャンパスの国際理工学科1年生は、水曜日の放課後に実施することを基本としているが、実施内容に応じて別の曜日や異なる時間で行うため、時間割上には明記していない。実施については、2～5年生は年間30単位時間以上の実施、白山麓キャンパスの1年生は卒業時まで90時間以上の実施となっており、内容についてもLHRだけではなく、学外研修や行事なども含め、学生の人間性の涵養を図っている。</p>
<p>観点5-1-② 教育課程の編成及び授業科目の内容について、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等が配慮されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 例えば、国際的に活躍できる技術者の養成が目的に含まれる場合には、外国語の伝達と読解の基礎能力育成について分析するなど、目的や卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして授業科目の内容の工夫を行っているか分析すること。</p> <p>○ この観点では教育課程の編成について分析するものであり、正規の教育課程とは別に実施しているもの（例えば、補習や補講等。）は、この観点の対象ではないことに留意すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第19条、第20条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえ、教育課程における具体的な配慮としてどのようなことを行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p>□他学科の授業科目の履修を認定</p> <p>■インターンシップによる単位認定</p> <p>□正規の教育課程に関わる補充教育の実施</p> <p>□専攻科課程教育との連携</p>	<p>◇チェックした配慮項目に関して、実施状況がわかる資料</p> <p>《インターンシップによる単位認定》</p> <p>資料 5-1-2-(1)-01</p> <p>「インターンシップⅠ実施資料」</p> <p>資料 5-1-2-(1)-02</p> <p>「インターンシップⅡ実施資料」</p> <p>資料 5-1-2-(1)-03</p>

<p>■外国語の基礎能力（聞く、話す、読む、書く）の育成</p> <p>■資格取得に関する教育</p> <p>■他の高等教育機関との単位互換制度</p> <p>□個別の授業科目内での工夫</p> <p>□最先端の技術に関する教育</p> <p>■その他</p>	<p>「インターンシップ実施企業と認定科目（平成30年度4年生用）」</p> <p>資料 5-1-2-(1)-04</p> <p>「平成27年度以降入学生の「インターンシップ」単位認定要領」</p> <p>《外国語の基礎能力（聞く、話す、読む、書く）の育成》</p> <p>資料 5-1-2-(1)-05</p> <p>「一般科目・複数教員授業と教室（H30）」</p> <p>少人数教育により、能力の向上を図っている。</p> <p>資料 5-1-2-(1)-06</p> <p>「一般科目 科目概要（英語科目抜粋）」</p> <p>資料 5-1-2-(1)-07</p> <p>「国際理工学科 一般科目 科目概要（英語科目抜粋）」</p> <p>《資格取得に関する教育》</p> <p>資料 5-1-2-(1)-08</p> <p>「取得を推奨する資格と関連授業科目」</p> <p>《他の高等教育機関との単位互換制度》</p> <p>資料 5-1-2-(1)-09</p> <p>「国際高等専門学校学則（平成29年度以前入学生適用）第11条」</p> <p>資料 5-1-2-(1)-10</p> <p>「国際高等専門学校外国留学に関する規定」</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p> <p>国際理工学科では、帰国子女や外国籍の学生の積極的な受け入れを推進するため、日本語能力が十分でない学生を対象とした振替科目を設定している。これらには英語科目に変わる日本語科目、歴史系科目の英語クラスなどがある。</p> <p>また、国際理工学科では、国際的に活躍をすることを目指しているため、専門や理数系科目を英語で学ぶイングリッシュ STEM の科目や、それらの学習をサポートするための「ブリッジイングリッシュ」の科目を実施している。</p> <p>資料 5-1-2-(1)-11</p> <p>「国際理工学科 Curriculum」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/curriculum/s/curriculum_s.pdf</p>
<p>(2) 他の高等教育機関との単位互換制度を設けている場合、法令に従い適切に取り扱っているか。</p>	<p>◇単位互換制度の内容がわかる資料</p> <p>(再掲) 資料 3-2-5-(2)-09</p>

<p> <input checked="" type="checkbox"/> 適切に取り扱っている <input type="checkbox"/> 適切に取り扱っていない <input type="checkbox"/> 単位互換制度を設けていないので、該当しない </p>	<p>「ニュージーランド・オタゴポリテクニクとの合意書」 (再掲) 資料 3-2-5-(2)-10 「オタゴポリテクニク留学生成績一覧表(平成30年度)」 (再掲) 資料 3-2-5-(2)-11 「NZ (オタゴポリテクニク) 留学 修得単位互換認定科目一覧」 オタゴポリテクニクにて、所定の科目をオタゴポリテクニクの基準により合格した場合(不合格科目があつてはならない)、本校の3年次の単位を一括(平成30年は29単位)で認定することとしている。令和2年度の国際理工学科3年生からは全学生がニュージーランドに留学し、オタゴポリテクニクで修得する科目と国際理工学科3年次の科目を個別に対応させたカリキュラムとなる。</p>
<p>観点5-1-③ 創造力・実践力を育む教育方法の工夫が図られているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 創造力を育む教育方法の工夫がわかる資料には、PBL型の授業や創造型の演習等における具体的な教育方法の工夫がわかる資料を提示すること。 ○ 創造力を育む教育方法の工夫については、学校としてどう捉え、どう展開しているかを踏まえて分析すること。 ○ 実践力を育む教育方法の工夫がわかる資料には、インターンシップの活用等の具体的な教育方法の工夫がわかる資料を提示すること。 <p>(注) PBLとは、プロジェクト課題を学生にグループ単位で与え、その課題を達成するためのアイデアの創出、計画立案、実現等を学生自身に遂行させることにより、学生の学習意欲、知識の活用能力、計画立案・遂行能力、ディベート能力、プレゼンテーション能力、組織運営能力等の向上を図るための学習・教育の方法のこと。Problem-based Learning 又は Project-based Learning の略。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない </p>	
<p>自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 創造力を育む教育方法の工夫を行っているか。</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない </p>	<p>◇創造力を育む教育方法の工夫がわかる資料(PBL型の授業や創造型の演習の実施等)</p> <p>資料 5-1-3-(1)-01 「カリキュラムの基本構成」 資料 5-1-3-(1)-02 「電気電子工学科 創造実験」 資料 5-1-3-(1)-03 「機械工学科 創造設計」 資料 5-1-3-(1)-04 「グローバル情報学科 創造設計」 資料 5-1-3-(1)-05 「国際理工学科 Curriculum」</p>

	<p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/curriculum/s/curriculum_s.pdf</p> <p>電気電子工学科は創造実験、機械工学科・グローバル情報学科は創造設計、国際理工学科はエンジニアリングデザインを中心に創造性の育成を図ることとしている。</p> <p>◇実施状況がわかる資料</p> <p>4学科それぞれの全体的な取り組み内容を挙げ、個別の事例を1点ずつ紹介することとする。</p> <p>(1) 電気電子工学科</p> <p>資料 5-1-3-(1)-06 「電気電子工学科 平成30年度 創造実験 実験題目および担当教員」</p> <p>資料 5-1-3-(1)-07 「T3 創造実験Ⅲ Lego Mindstorm スケジュール」</p> <p>資料 5-1-3-(1)-08 「T3 創造実験Ⅲ 3週目 学生ノート(モーターとセンサー)」</p> <p>資料 5-1-3-(1)-09 「T3 創造実験Ⅲ Lego Mindstorm ファイナルチャレンジ説明」</p> <p>資料 5-1-3-(1)-10 「T3 創造実験Ⅲ 別川製作所杯ロボコン競技概要」</p> <p>資料 5-1-3-(1)-11 「第4回別川製作所杯争奪ロボットコンテスト実施報告」</p> <p>(2) 機械工学科</p> <p>資料 5-1-3-(1)-12 「M2 創造設計Ⅱ年間スケジュール」</p> <p>資料 5-1-3-(1)-13 「M3 創造設計Ⅲスケジュール表」</p> <p>資料 5-1-3-(1)-14 「M4 創造設計Ⅳスケジュール」</p> <p>資料 5-1-3-(1)-15 「創造設計Ⅳ 個人レポート 1～4班サンプル」</p> <p>資料 5-1-3-(1)-16 「創造設計Ⅳ 第2回技術審査評価シート」</p> <p>(3) グローバル情報学科</p> <p>資料 5-1-3-(1)-17 「グローバル情報学科平成30年度創造設計スケジュール」</p>
--	---

	<p>ル」</p> <p>資料 5-1-3-(1)-18 「J4 創造設計 IV 秋学期テーマ」</p> <p>資料 5-1-3-(1)-19 「J4 創造設計IV 秋学期 学生企画書」</p> <p>資料 5-1-3-(1)-20 「創造設計IV最終評価票」</p> <p>(4) 国際理工学科</p> <p>資料 5-1-3-(1)-21 「S1 エンジニアリングデザイン I A・B 学期スケジュール」</p> <p>資料 5-1-3-(1)-22 「S1 エンジニアリングデザイン I B 授業概要」</p> <p>資料 5-1-3-(1)-23 「エンジニアリングデザイン I B 学生最終発表資料」</p> <p>資料 5-1-3-(1)-24 「エンジニアリングデザイン I B 学生作成ポスター」</p> <p>資料 5-1-3-(1)-25 「S1 エンジニアリングデザイン I B 最終発表会報告」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/journal/6447/</p> <p>資料 5-1-3-(1)-26 「エンジニアリングデザイン I B PP 口頭発表評価」</p> <p>資料 5-1-3-(1)-27 「エンジニアリングデザイン I B ポスター発表評価」</p> <p>◆工夫を行った結果、学生が創造力を発揮し、あげた成果や効果があれば具体的に、資料を基に記述する。</p> <p>(1) 電気電子工学科の学生を中心としたグループは、発電技術と地域活性化の提案を目的とした小水力発電アイデアコンテストに参加した。河川の状況に合わせた発電装置の設計・製作とその発生電力を地域にどのようにして活かすかを競うコンテストである。学生は創造性と修得した知識を活かし、発電装置の設計製作に取り組んだ。結果として製作した発電装置は参加チームの中で唯一発電電力 100W を越え、「白山市長賞」を受賞した。</p> <p>資料 5-1-3-(1)-28 「第 7 回小水力発電アイデアコンテストに参加」</p> <p>(2) 機械工学科の卒業研究グループは、全日本学生室内飛行ロボットコンテスト・マルチコプタ部門に参加した。</p>
--	--

	<p>予選と決勝では、物資の移動や8の字飛行などの5つの課題を技術とチームワークで克服し、他の大学生チームを押さえ優勝した。今回は3回目の挑戦であった。</p> <p>資料 5-1-3-(1)-29 「第14回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト・マルチコプタ1位」</p> <p>(3) グローバル情報工学科のグループは、金沢工業大学の学生と共にIoT技術を利用した「賢いバス停システム」を開発するプロジェクトに取り組んだ。実証実験では、野々市市のバス「のっティ」のバス停に設置されたカメラからの画像を抽出し、独自のネットワーク通信技術を使用して有効性を検証した。</p> <p>資料 5-1-3-(1)-30 「WSN-IoT AWARD2018 奨励賞受賞」 (指導教員が WSN-IoT AWARD2018 奨励賞受賞を受賞) https://www.ict-kanazawa.ac.jp/2018/05/24/2555/</p> <p>資料 5-1-3-(1)-31 「バスストッププロジェクト H30 活動の記録」</p> <p>(4) 国際理工学科1年生の2グループが、夏季のプロジェクトや、授業での成果を基に学会発表に参加した。ポスターセッションで、スケジュール管理アプリケーションの開発、デジタルポートフォリオの作成について発表を行った。</p> <p>資料 5-1-3-(1)-32 「第81回情報処理学会 中高生ポスターセッション概要」 https://www.gakkai-web.net/gakkai/ipsj/81/event/html/event/B-6.html</p> <p>資料 5-1-3-(1)-33 「ポスターセッション用ポスター」</p> <p>このように、各学科の学生が外部のコンテストやプロジェクトに参加し成果をあげており、これらは本校の創造力を育む教育の結果であると考えます。</p>
<p>(2) 実践力を育む教育方法の工夫を行っているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 行っている</p> <p><input type="checkbox"/> 行っていない</p>	<p>◇実践力を育む教育方法の具体的な工夫がわかる資料 (インターンシップの実施等。)</p> <p>資料 5-1-3-(2)-01 「キャリアデザイン教育体系」</p>

	<p>5年間を通じたキャリアデザイン教育の中で、インターンシップを実施し、実践力を育む。</p> <p>(再掲) 資料 5-1-2-(1)-01 「インターンシップ I 実施資料」</p> <p>(再掲) 資料 5-1-2-(1)-02 「インターンシップ II 実施資料」</p> <p>(再掲) 資料 5-1-2-(1)-04 「平成 27 年度以降入学生の「インターンシップ」単位認定要領」</p> <p>◇実施状況がわかる資料</p> <p>(再掲) 資料 5-1-2-(1)-03 「インターンシップ実施企業と認定科目(平成 30 年度 4 年生用)」</p> <p>資料 5-1-3-(2)-02 「平成 30 年度 国際高等専門学校 インターンシップ 報告会プログラム TMJ」</p> <p>資料 5-1-3-(2)-03 「平成 30 年度インターンシップ報告会受付名簿」 インターンシップ先企業の方などの参加を得て、報告会を実施している。</p> <p>資料 5-1-3-(2)-04 「インターンシップ報告会実施報告」</p> <p>◆工夫を行った結果、学生が実践力を発揮し、あげた成果や効果があれば具体的に、資料を基に記述する。</p> <p>(1) インターンシップの経験後に、海外の学生と共に、地域の問題解決にあたるプロジェクト(ラーニングエクスプレス)が提供されている。参加希望者から選抜された 4 名の学生は、タイ王国チェンマイで文化の異なる学生とチームを組み、現地の問題解決の提案を行った。参加学生は、今後の国際的な活動への参加への自信につながるといえる。</p> <p>資料 5-1-3-(2)-05 「ラーニングエクスプレス 2019 概要」</p> <p>資料 5-1-3-(2)-06 「KIT・ICT ラーニングエクスプレス報告会」</p> <p>(2) インターンシップを含めたキャリアデザイン教育により、学生の社会問題に対する興味・関心を高めることに努めている。その事例として、「金沢インバウンドプロジ</p>
--	---

	<p>エクト」がある。近隣大学生とともに外国人観光客に金沢市の魅力を案内する取り組みがあり、本校学生はグループのサブリーダーとして、金沢駅構内での案内表示に関し、他の大学生や留学生とともにアイデアの提供、企画に携わった。</p> <p>資料 5-1-3-(2)-07 「金沢インバウンドプロジェクト 依頼文」 http://www.kanazawa-jc.or.jp/2018/topics/2689/ 資料 5-1-3-(2)-08 「金沢インバウンドプロジェクト概要・活動内容」</p> <p>このように学生は、実際の社会が抱えている問題にアプローチし、解決策を考えるプロジェクト活動への参加が見られる。これらは、インターンシップなどのキャリアデザイン教育を通じた本校の実践力を育む教育の成果であるとする。</p>
--	--

5-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

平成30年度は5年生、4～2年生、1年生の3つのカリキュラムが同時に運用されている。このため、観点5-1-1-(1)では3種類のカリキュラムを挙げている。

また、観点5-1-1-(3)で挙げる国際高等専門学校学則（平成29年度までは金沢工業高等専門学校学則）も、平成30年度5年生、4～2年生、1年生でそれぞれ適用される学則が異なるが、5年生と4～2年生では、第6条の設置学科、及び第9条別表1「教育課程表」他が異なるのみのため、便覧等に掲載されているとおり「平成29年度以前入学生適用」として一括で取り扱い、1年生の「平成30年度以降入学生適用」の学則とともに掲載することとする。

評価の視点

5-2 準学士課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。

観点5-2-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。

【留意点】なし。

関係法令 (設)第17条の2

観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する

□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
--------------------------	-------------------

(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されているか。	◇授業形態の開講状況（バランスを含む。）がわかる資料 資料 5-2-1-(1)-01 「授業形態のバランス（H30）」
--	---

<p> <input checked="" type="checkbox"/>採用されている <input type="checkbox"/>採用されていない </p>	<p> ◆授業形態のバランスが適切であることについて、資料を基に記述する。 </p> <p> 電気電子工学科・機械工学科・グローバル情報学科では、創造実験・創造設計を支柱としたものづくり教育に、一般・専門教育を組み合わせることで、目標の達成を図ることとしている。また、国際理工学科では、グローバルイノベーターの素養の修得と主体的な体験を重視することとしている。こうしたものづくり教育や体験による教育は、一般・専門教育で修得した知識・経験の上に立脚し、支えられることとなるため、講義と演習および実験実習の比率は6：4程度が妥当と考えている。 </p> <p> 資料 5-2-1-(1)-01「授業形態のバランス (H30)」からみた各学科の比率は以下の通りとなっている。電気電子工学科では上級生で専門修得のための講義科目が増えているため講義 67.3%、演習・実験実習 32.7%、機械工学科では、上級生で実践的な実験科目を多く配置しているため講義 54.0%、演習・実験実習 46.0%、コンピュータ・プログラミングなどの演習系科目の多いグローバル情報学科では講義 55.8%、演習・実験実習 44.2%である。また、国際理工学科は1年生では、基礎知識の修得に重点が置かれているため講義 67.5%、演習・実験実習 32.5%となっている。 </p> <p> 学科間で多少差異はあるが、概ねこの6：4バランスに近い形であり、方針に沿った適切なバランスであると考えている。 </p>
<p> (2) 教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。(該当する選択肢にチェック■する。) </p> <p> <input checked="" type="checkbox"/>教材の工夫 <input checked="" type="checkbox"/>少人数教育 <input checked="" type="checkbox"/>対話・討論型授業 <input checked="" type="checkbox"/>フィールド型授業 <input checked="" type="checkbox"/>情報機器の活用 <input checked="" type="checkbox"/>基礎学力不足の学生に対する配慮 <input checked="" type="checkbox"/>一般科目と専門科目との連携 <input type="checkbox"/>その他 </p>	<p> ◇チェックした項目の実施状況がわかる資料 </p> <p> 《教材の工夫》 資料 5-2-1-(2)-01 「平成30年度 機械工学科自作 実験指導書リスト」 資料 5-2-1-(2)-02 「機械工学科自作指導書サンプル」 機械工学科では創造設計や工学実験のテキストを作成し、改善しながら利用している。 </p> <p> 《少人数教育》 資料 5-2-1-(2)-03 「少人数教育を実施している授業がわかるリスト」 少人数クラスでの授業による理解度向上やグループワークの実施、チームティーチング体制による授業内でのサポートの充実、科目内の授業内容に合わせた教員配置によ </p>

	<p>る教育内容の充実推進などを図っている。</p> <p>《対話・討論型授業》</p> <p>資料 5-2-1-(2)-04</p> <p>「国際理工学科 エンジニアリングコンテキスト I B ディベート授業概要」</p> <p>《フィールド型授業》</p> <p>資料 5-2-1-(2)-05</p> <p>「フィールド型授業を含む授業の学習支援計画書」</p> <p>資料 5-2-1-(2)-06</p> <p>「高松中学校 学生が教師役となる体験型授業の実施依 頼文」</p> <p>資料 5-2-1-(2)-07</p> <p>「上級英語 I 高松中学校出前授業報告」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/2019/02/08/6290/</p> <p>《情報機器の活用》</p> <p>資料 5-2-1-(2)-08</p> <p>「白山麓キャンパス 学習支援システム manaba につい て」</p> <p>https://www.ict- kanazawa.ac.jp/student_handbook_s/80p_school.pdf</p> <p>資料 5-2-1-(2)-09</p> <p>「学習支援システム manaba の活用」</p> <p>資料 5-2-1-(2)-10</p> <p>「金沢キャンパス 学生・教員間の課題提出・提供方法 (Public・Share)」</p> <p>《基礎学力不足の学生に対する配慮》</p> <p>資料 5-2-1-(2)-11</p> <p>「平成30年度補習実施要領」</p> <p>資料 5-2-1-(2)-12</p> <p>「補習実施報告書フォーマット」</p> <p>(再掲) 資料 3-2-2-(1)-04</p> <p>「数学サポートアワーの案内」</p> <p>《一般科目と専門科目との連携》</p> <p>資料 5-2-1-(2)-13</p> <p>「異分野を専門とする教員連携を導入した一般科目」</p> <p>資料 5-2-1-(2)-14</p> <p>「国際理工学科 科目概要 ブリッジイングリッシュ」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp- content/uploads/2018/11/45p_subject.pdf</p> <p>ブリッジイングリッシュは、数理科目を英語で学ぶ際 のサポートとなる内容を含んでいる。</p>
--	--

	<p>◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>
<p>観点5-2-② 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第17条、第17条の3</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて適切に設定された項目に基づきシラバスを作成しているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p>■授業科目名</p> <p>■単位数</p> <p>■授業形態</p> <p>■対象学年</p> <p>■担当教員名</p> <p>■教育目標等との関係</p> <p>■達成目標</p> <p>■教育方法</p> <p>■教育内容（1授業時間ごとに記載）</p> <p>■成績評価方法・基準</p> <p>■事前に行う準備学習</p> <p>■高等専門学校設置基準第17条第3項の規定に基づく授業科目か、4項の規定に基づく授業科目かの区別の明示</p> <p>■教科書・参考文献</p> <p>■その他</p>	<p>◇シラバスの作成要領や具体例等の左記内容がわかる資料</p> <p>資料5-2-2-(1)-01 「平成30年度学習支援計画書作成方法と諸注意（金沢C）」</p> <p>資料5-2-2-(1)-02 「平成30年度 学習支援計画書 書式（金沢C）」</p> <p>資料5-2-2-(1)-03 「平成30年度学習支援計画書作成方法（白山麓C）」</p> <p>資料5-2-2-(1)-04 「平成30年度 学習支援計画書 書式（白山麓C）」</p> <p>資料5-2-2-(1)-05 「4項規定授業科目 学習支援計画書 サンプル」</p> <p>◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容（項目）を記述する。</p> <p>スムーズな質問対応などを行うため、教員の居室とオフィスアワーを記入する欄を設けている。</p>
<p>(2) 教員及び学生のシラバスの活用状況を把握し、その把握した状況を基に改善を行っているか。</p> <p>■改善を行っている</p> <p>□改善を行っていない</p>	<p>◇活用状況がわかる資料</p> <p>資料5-2-2-(2)-01 「教員に学生へのシラバス配布を指示した資料」</p> <p>資料5-2-2-(2)-02 「シラバスの活用状況に関するアンケート」</p> <p>資料5-2-2-(2)-03 「シラバスの利用状況データ」</p>

	<p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2018/06/h29_2.pdf</p> <p>◆改善を行った事例があれば、改善内容について、資料を基に記述する。</p> <p>アンケート結果に見られるように、学習支援計画書の利用がない学生が一定数いるため、4月の修学ガイダンスで利用促進のためのアナウンスを行った。</p> <p>(再掲) 資料 5-2-2-(2)-03 「シラバスの利用状況データ」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2018/06/h29_2.pdf 資料 5-2-2-(2)-04 「利用促進するための取り組みを示す資料」</p>
<p>(3) 設置基準第 17 条第 3 項の 30 単位時間授業では 1 単位当たり 30 時間を確保しているか。</p> <p>■確保している □確保していない</p>	<p>◇状況が確認できる資料 (学年暦、時間割等)</p> <p>(再掲) 資料 5-1-1-(4)-01 「平成 30 年度学年暦 (1 年次)」</p> <p>(再掲) 資料 5-1-1-(4)-02 「平成 30 年度学年暦 (2～5 年次)」</p> <p>資料 5-2-2-(3)-01 「平成 30 年度時間割」</p>
<p>(4) (3) の 30 単位時間授業では、1 単位時間を 50 分としているか。</p> <p>■ 1 単位時間=50 分で規定・運用 ■ 1 単位時間=50 分で規定、45 分で運用</p>	<p>◆ 1 単位時間を 50 分以外で運用している場合は、標準 50 分に相当する教育内容を確保していることについて、学校の現状を踏まえ、資料を基に記述する。</p> <p>平成 30 年 3 月まで、金沢キャンパスの 2～5 年生では 50 分で運用、白山麓キャンパスの 1 年生は 90 分 (45 分×2) 15 回を 1 単位として運用している。白山麓キャンパスでは、各授業の出席確認及び前回授業の内容確認などの導入部分、その日の授業の振り返りに要する時間などが、50 分 30 回を実施する場合に比べて短縮されるため、実質 50 分の授業に相当する教育内容を確保していると判断する。</p> <p>なお、平成 31 年 4 月からは更なる充実を図るため、両キャンパスとも 100 分 (50 分×2) 15 回を 1 単位として運用することとしている。</p> <p>資料 5-2-2-(4)-01 「国際高専授業時間」</p>
<p>(5) 1 単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて</p>	<p>◇シラバス集、履修要項等の明示状況がわかる資料</p>

<p>45 時間である授業科目を配置している場合には、授業科目ごとのシラバス、あるいはシラバス集、履修要項等に、1 単位の履修時間は授業時間以外の学修等を合わせて 45 時間であることを明示しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 明示している</p> <p><input type="checkbox"/> 明示していない</p>	<p>資料 5-2-2-(5)-01</p> <p>「単位についての資料」</p> <p>資料 5-2-2-(5)-02</p> <p>「学修単位科目 学習支援計画書 サンプル」</p>
<p>(6) (5) の履修時間の実質化のための対策としてどのような方策を講じているか。(該当する選択肢にチェック ■ する。)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 授業外学習の必要性の周知</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事前学習の徹底</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事後展開学習の徹底</p> <p><input type="checkbox"/> 授業外学習の時間の把握</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<p>◇チェックした方策の具体的な内容がわかる資料</p> <p>資料 5-2-2-(6)-01</p> <p>「学生への周知を示す資料」</p> <p>資料 5-2-2-(6)-02</p> <p>「学修単位科目 学習支援計画書 サンプル」</p> <p>資料 5-2-2-(6)-03</p> <p>「応用物理 I 予習課題サンプル」</p> <p>◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容を記述する。</p>
<p>5-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>該当なし</p>	
<p>評価の視点</p> <p>5-3 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。</p>	
<p>観点 5-3-① 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設) 第 17 条の 3</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック ■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック ■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、策定しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 策定している</p>	<p>◇成績評価や単位認定に関する規程等の該当箇所</p> <p>資料 5-3-1-(1)-01</p> <p>「成績評価や単位認定に関する基準を記載した規定」</p>

<p><input type="checkbox"/>策定していない</p> <p>(2) 成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>行っている</p> <p><input type="checkbox"/>行っていない</p>	<p>◇成績評価の組織内でのチェック等、成績評価が適切に実施されていることがわかる資料</p> <p>資料 5-3-1-(2)-01 「成績評価に係わるエビデンスの処理に関する指示」</p> <p>資料 5-3-1-(2)-02 「エビデンスチェックシート 成績算出根拠」</p>
<p>(3) 1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>把握している</p> <p><input type="checkbox"/>把握していない</p>	<p>◇学校として把握していることがわかる資料</p> <p>(再掲) 資料 5-3-1-(2)-02 「エビデンスチェックシート 成績算出根拠」</p> <p>各教員に担当科目の成績算出根拠等の提出を依頼している。</p>
<p>(4) 成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>周知している</p> <p><input type="checkbox"/>周知していない</p>	<p>◇周知を図る取組の内容(学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。)がわかる資料</p> <p>資料 5-3-1-(4)-01 「単位認定と成績評価についての学生便覧の記載(平成29年度以前入学生適用)」</p> <p>資料 5-3-1-(4)-02 「単位認定と成績評価についての学生便覧の記載(平成30年度以降入学生適用)」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/student_handbook_s/80p_school.pdf</p>
<p>(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>把握している</p> <p><input type="checkbox"/>把握していない</p>	<p>◇認知状況がわかる資料</p> <p>資料 5-3-1-(5)-01 「成績評価・単位認定に関するアンケート」</p> <p>資料 5-3-1-(5)-02 「成績評価・単位認定に関するアンケート結果」</p>
<p>(6) 追試、再試の成績評価方法を定めているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>定めている</p> <p><input type="checkbox"/>定めていない</p>	<p>◇追試、再試の成績評価の規程等がわかる資料</p> <p>資料 5-3-1-(6)-01 「追試験・再試験に関する基準を記載した規定」</p> <p>本校では、伝染病の罹患や公共交通機関の遅延など、やむを得ない理由により定期試験を受験できなかった学生に実施する試験を追試験としている。また、定期試験を受験したが評点が不合格となった場合に実施する試験を再試験としている。</p>
<p>(7) 成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会が</p>	<p>◇成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会の規</p>

<p>あるか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ある</p> <p><input type="checkbox"/>ない</p>	<p>程等がわかる資料</p> <p>資料 5-3-1-(7)-01 「意見申立に関する基準を記載した規定」</p> <p>資料 5-3-1-(7)-02 「平成 30 年度 年度末卒業・進級関係日程」</p>
<p>(8) 成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。(該当する選択肢にチェック <input checked="" type="checkbox"/>する。)</p> <p><input type="checkbox"/>成績評価の妥当性の事後チェック</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>答案の返却</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>模範解答や採点基準の提示</p> <p><input type="checkbox"/>GPA の進級判定への利用</p> <p><input type="checkbox"/>成績分布のガイドラインの設定</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック</p> <p><input type="checkbox"/>試験問題のレベルが適切であることのチェック</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>	<p>◆実施状況や成績分布を踏まえて、成績評価や単位認定における基準の客観性・厳格性を担保するための措置が、有効に機能しているかどうかについて、資料を基に記述する。</p> <p>試験の答案の返却や模範解答・配点の提示を義務づけており、学生も評価に誤りが無いか確認することにより、基準の客観性を担保できていると判断する。</p> <p>資料 5-3-1-(8)-01 「平成 30 年度学習支援計画書作成方法と諸注意（金沢 C） 答案返却」及び資料」</p> <p>資料 5-3-1-(8)-02 「エビデンスチェックシート 模範解答・配点」</p> <p>ICT 教育評価委員会により試験問題のサンプルチェックを行っており、複数年次にわたり同じ問題を使用していないかを確認した結果、問題は認められておらず、基準の厳格性を担保していると考えます。</p> <p>資料 5-3-1-(8)-03 「H30 試験問題確認シート及び試験問題チェックリスト」</p> <p>◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容を記述する。</p>
<p>観点 5-3-② 卒業認定基準が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、卒業認定が適切に実施されているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法) 第 117 条 (設) 第 17 条第 3～6 項、第 17 条の 2、第 17 条の 3、第 18 条、第 19 条、第 20 条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する <input type="checkbox"/>欄をチェック <input checked="" type="checkbox"/>）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/>満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する <input type="checkbox"/>欄をチェック <input checked="" type="checkbox"/>）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学則等に、修業年限を 5 年（商船に関する学科は 5 年 6 月。）と定めているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>定めている</p>	<p>◇学則等の該当箇所がわかる資料</p> <p>資料 5-3-2-(1)-01 「国際高等専門学校学則（平成 29 年度以前入学生適用）」</p>

<p><input type="checkbox"/> 定めていない</p>	<p>第 2 条」 資料 5-3-2-(1)-02 「国際高等専門学校学則（平成 30 年度以降入学生適用） 第 2 条」</p>
<p>(2) 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、卒業認定基準を定めているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 定めている <input type="checkbox"/> 定めていない</p>	<p>◇定めている該当規程や卒業認定基準 資料 5-3-2-(2)-01 「国際高等専門学校学則（平成 29 年度以前入学生適用） 第 1 2 条」 資料 5-3-2-(2)-02 「国際高等専門学校学則（平成 30 年度以降入学生適用） 第 1 2 条」 資料 5-3-2-(2)-03 「卒業認定基準を記載した規定」</p>
<p>(3) 卒業認定基準に基づき、卒業認定しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 認定している <input type="checkbox"/> 認定していない</p>	<p>◇関係する委員会等の会議資料 資料 5-3-2-(3)-01 「クラス別進級・卒業判定明細表」 資料 5-3-2-(3)-02 「科目別成績一覧表」 資料 5-3-2-(3)-03 「特別活動 成績報告書」 資料 5-3-2-(3)-04 「出席日数確認資料 平成 30 年度」 資料 5-3-2-(3)-05 「卒業判定会議 確認事項」 資料 5-3-2-(3)-06 「平成 3 0 年度 卒業判定結果」 資料 5-3-2-(3)-07 「卒業認定に関する会議の記録」</p>
<p>(4) 卒業認定基準を学生に周知しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 周知している <input type="checkbox"/> 周知していない</p>	<p>◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料 資料 5-3-2-(4)-01 「卒業要件について周知した資料（平成 29 年度以前入学生）」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2019/04/p93-121.pdf 資料 5-3-2-(4)-02 「卒業要件について周知した資料（平成 30 年度以降入学生）」</p>

	<p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/student_handbook_s/80p_school.pdf</p>
<p>(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。</p> <p>■把握している</p> <p>□把握していない</p>	<p>◇学生の認知状況を把握していることがわかる資料</p> <p>資料 5-3-2-(5)-01</p> <p>「卒業認定基準に関するアンケート」</p> <p>資料 5-3-2-(5)-02</p> <p>「卒業認定基準に関するアンケート結果」</p>
<p>5-3 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>観点 5-3-2 の(1)及び(2)での学則の掲載に関して、5年生適用の学則については観点 5-2 の特記事項と同様に、便覧等に掲載されている「平成29年度以前入学生適用」として2～4年生と一括で取り扱うこととする。</p>	

基準5

<p>優れた点</p> <p>グローバルな環境で活躍できるコミュニケーション能力の育成に向けて、日本人教員と海外出身教員とのチームティーチングでの専門授業やものづくり教育の支柱である創造実験・創造設計を含むエンジニアリングデザイン教育を深化させてきた。自ら身に付けた創造性やコミュニケーションの能力を発揮する場所として、課外プロジェクト、海外留学制度やラーニングエクスプレスなどを提供してきている。(観点 5-1-③参照)。</p> <p>さらに、平成30年度に設置した国際理工学科では、STME 教育科目やエンジニアリングデザインなどを通じて基礎的な理工学概念や思考力を身に付けることを目指している。その特色は学年進行につれて教育環境を変化させ、修学レベルに対応した STEM 教育や地方創生に寄与する PBL 型のエンジニアデザイン教育を中心としたカリキュラムにある。(観点 5-1-①-(1)参照)。</p> <p>国際理工学科を担当する教員は半数以上が海外出身や実務経験者であり、多様性に富んだ学習・生活環境を提供するとともに、留学生・帰国子女に対応した科目の配置により、留学生や帰国子女の積極的な受け入れ体制を設け、グローバルな環境に対応できる能力の促進を図っている。現在、令和2年度からの3年次全学生のニュージーランドのオタゴポリテクニクでの1年間留学へ向けて進んでいる。(観点 5-1-②-(1)、(2)参照)。</p>
<p>改善を要する点</p>

基準6 準学士課程の学生の受入れ

<p>評価の視点</p> <p>6-1 入学者の選抜が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な方法で実施され、機能していること。また、実入学者数が、入学定員と比較して適正な数となっていること。</p>	
<p>観点6-1-① 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 合否判定基準については、提示できるものがあれば、提示すること。自己評価書での提示が不可能な場合は、訪問調査時に提示すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第3条の2</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等。）、面接内容、配点・出題方針等。）となっているか。</p> <p>■なっている</p> <p>□なっていない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◇入学者選抜要項、面接要領、合否判定基準、入学試験実施状況等がわかる資料</p> <p>資料 6-1-1-(1)-01</p> <p>「平成30（2018年）年度学生募集要項」</p> <p>資料 6-1-1-(1)-02</p> <p>「国際高等専門学校入学者選抜規程」</p> <p>資料 6-1-1-(1)-03</p> <p>「平成30年度入学試験実施についての注意事項」（訪問調査時資料）</p> <p>資料 6-1-1-(1)-04</p> <p>「面接要領」（訪問調査時資料）</p> <p>資料 6-1-1-(1)-05</p> <p>「平成30年度判定資料概要」（訪問調査時資料）</p> <p>資料 6-1-1-(1)-06</p> <p>「平成30年度入学試験選考資料」（訪問調査時資料）</p> <p>資料 6-1-1-(1)-07</p> <p>「志願者・在学者・卒業者の状況」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2019/06/education_informationir_04.pdf</p>
<p>観点6-1-② 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を実際に受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p>	

<input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇検証する体制に関する資料 資料 6-1-2-(1)-01 「学生の受け入れに関する検証・改善フロー図」 ◇改善に役立てる体制に関する資料 （再掲）資料 6-1-2-(1)-01 「学生の受け入れに関する検証・改善フロー図」
(2) (1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿っているかどうかの検証を行っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	◇検証を行っていることがわかる資料 資料 6-1-2-(2)-01 「平成 30 年度 検証のための成績追跡データ」 資料 6-1-2-(2)-02 「検証のための性格行動の記録（学生指導要録記載）」
(3) (2)の検証の結果を入学者選抜の改善に役立てているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善に役立てている <input type="checkbox"/> 改善に役立てていない	◆検証の結果に基づいた具体的な改善の実施状況を踏まえて、検証の結果を改善に役立てている状況について、資料を基に記述する。 平成 29 年度入学生では、入学後のオリエンテーションテスト、1・2 年次の成績の GPA 及び英語科目の評点を抽出した。また、平成 30 年度入学生では、1 年次の成績の GPA、英語科目の評点、ものづくりに関わる共創科目の評点を抽出した。これらの抽出したデータより、アドミッション・ポリシーに挙げる、基礎学力やものづくりへの興味、英語の能力向上を確認している。 学生指導要録の「基本的生活」から「社会性」にわたる項目を、毎年、担任が A～C の 3 段階で評価しており、これらによりアドミッション・ポリシーにみられる社会貢献、意欲、誠実さなどを確認することとしている。 （再掲）資料 6-1-2-(2)-01 「平成 30 年度 検証のための成績追跡データ」 （再掲）資料 6-1-2-(2)-02 「検証のための性格行動の記録（学生指導要録記載）」 このような検証の結果、平成 30 年度の募集では、学科改編に合わせて、英語での面接を導入するとともに、面接時間を延ばすことにより、英語でのコミュニケーション能力や能力向上の意欲、ニュージーランド留学や寮生活への意欲を確認することとした。また、英語での作文も含めた、小論文の試験を実施することにより、ものづくりにも必要な思考力を確認することとした。 （再掲）資料 6-1-1-(1)-01

	「平成30（2018年）年度学生募集要項」 資料 6-1-2-(3)-01 「2019年度学生募集要項」
<p>観点6-1-③ 実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○（2）の体制の整備は、必ずしもこの取組に特化した組織を整備することを求めているのではなく、既存の委員会で対応することとしている場合には、当該委員会に関する規定の所掌において定員と実入学者数との関係の把握と必要な改善のための取組が明示されていることを分析すること。</p> <p>○（3）の入学定員に対する入学者数は、大学、大学院、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準に照らして、分析すること。</p>	
関係法令	（設）第4条の2、第5条第2項 大学、大学院、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年3月31日文科科学省告示第45号）
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 学生定員を学科ごとに1学級当たり40人を標準として、学則で定めているか。</p> <p>■定めている</p> <p>□定めていない</p>	<p>◇学則の該当箇所</p> <p>資料 6-1-3-(1)-01</p> <p>「国際高等専門学校学則 第7条」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2019/03/11p_regulations.pdf</p>
<p>(2) 学科ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇体制の整備に係る規程等がわかる資料</p> <p>資料 6-1-3-(2)-01</p> <p>「校長を中心とする企画・運営体制を示す資料」</p> <p>資料 6-1-3-(2)-02</p> <p>「募集活動を実施する組織がわかる資料」</p>
<p>(3) 過去5年間の学科ごとの入学定員に対する実入学者数が適正であるか。</p> <p>□適正である</p> <p>■超過又は不足がある</p>	<p>◇【別紙様式】平均入学定員充足率計算表</p> <p>資料 6-1-3-(3)-01</p> <p>「平均入学定員充足率計算表【国際高等専門学校】」</p> <p>国際理工学科では入学定員に対する大幅な不足が生じている。</p>
<p>(4) 過去5年間で、実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っているか。</p> <p>■行っている</p> <p>□行っていない</p> <p>□過去5年間で大幅に超過、大幅に不足していないので、該当しない</p>	<p>◆大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合には、該当する学科について、実入学者数の改善に資する取組や教育環境等の改善により教育等に支障が生じないように取った対応等、実際に行った事例がわかる資料を基に記述する。</p> <p>平成30年度の国際理工学科の入学者数の不足に対して、学校説明会、見学会、サマースクールなどの中学生・</p>

	<p>保護者の参加型募集イベントを多く開催し、入学者数の改善への取組を行った。</p> <p>資料 6-1-3-(4)-01 「平成 29 年度・30 年度学校説明会等開催日程・来場者人数」</p> <p>資料 6-1-3-(4)-02 「国際高専「進学説明会」開催」</p> <p>資料 6-1-3-(4)-03 「国際高専学校見学会」</p> <p>資料 6-1-3-(4)-04 「帰国子女を対象にサマーワークショップ開催」</p> <p>資料 6-1-3-(4)-05 「国際高専サマースクール」</p> <p>資料 6-1-3-(4)-06 「国際高等専門学校見学会を実施」 (再掲) 資料 1-1-3-(2)-06 「本年度第 4 回学校見学会を開催」</p> <p>教育環境については、定員不足となっている白山麓キャンパスの国際理工学科 1 年生では、少人数制の授業運営を基本とし、設備面でも問題はなく、特に改善を行う必要はないと判断する。</p>
<p>6-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>該当なし</p>	

基準 6

<p>優れた点</p>
<p></p>
<p>改善を要する点</p>
<p>国際理工学科では、平成 30 年度に続き令和元年度の入学者数も定員を下回っており、定員の充足に向けての更なる改善・活動が必要と認識している。(観点 6-1-③-(4)参照)。</p>

基準7 準学士課程の学習・教育の成果

<p>評価の視点</p> <p>7-1 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育の成果が認められること。</p>	
<p>観点7-1-① 成績評価・卒業認定の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 学生の成績（卒業時のGPA値等。）や原級留置の状況、単位修得率（登録授業単位数に対する修得単位数の率。）等、成果を総合的に分析すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇体制の整備状況がわかる資料</p> <p>資料 7-1-1-(1)-01</p> <p>「成績評価・卒業認定フロー図」</p> <p>(再掲) 資料 1-1-1-(2)-06</p> <p>「国際高等専門学校学務会議規程」</p> <p>(再掲) 資料 2-1-3-(1)-01</p> <p>「国際高等専門学校教務委員会規程」</p>
<p>(2) 学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果を把握・評価しているか。</p> <p>■把握・評価している</p> <p>□把握・評価していない</p>	<p>成績評価、卒業認定は、学年末の教員会議、教務委員会で確認後、学務会議の審議を経て決定される。また、教育の成果についてもこれらの会議で確認することとしている。</p>
<p>(3) (2)の結果から学習・教育の成果が認められるか。</p> <p>■認められる</p> <p>□認められない</p>	<p>◇成績評価・卒業認定等に関するデータ・資料</p> <p>資料 7-1-1-(2)-01</p> <p>「平成30年度卒業生が修得した単位がわかる資料」</p> <p>5年間の履修単位を示し、修得単位が○、未取得単位が×となっている。</p> <p>(再掲) 資料 5-3-2-(3)-06</p> <p>「平成30年度 卒業判定結果」</p> <p>◇把握・評価の実施状況がわかる資料</p> <p>資料 7-1-1-(2)-02</p> <p>「卒業認定について確認する会議の資料」</p> <p>資料 7-1-1-(2)-03</p> <p>「平成30年度卒業生5年次学科別成績分布図」</p> <p>5年次履修科目の成績平均点の分布を示す。</p> <p>資料 7-1-1-(2)-04</p> <p>「学科別入学生数に対する卒業生数の割合」</p> <p>◆左記(2)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育の成果が認められることについて、資料を基に記述する。</p>

	<p>この3年間では、入学生数に対する卒業生数の割合は、7～8割で推移しているが、平成30年度の5年生は、81名全員が卒業を認定され、原級留置は0名である。5年次の成績平均点の分布では全員が基準点の60点を超え、5年間の履修単位数に対する修得単位数の割合も、ほとんどの学生が100%となっている。</p> <p>このように、成績や卒業認定状況から、卒業時の学生には本校での学習・教育の成果が認められると判断する。</p> <p>(再掲) 資料 7-1-1-(2)-04 「学科別入学生数に対する卒業生数の割合」</p> <p>(再掲) 資料 5-3-2-(3)-06 「平成30年度 卒業判定結果」</p> <p>(再掲) 資料 7-1-1-(2)-03 「平成30年度卒業生5年次学科別成績分布図」</p> <p>(再掲) 資料 7-1-1-(2)-01 「平成30年度卒業生が修得した単位がわかる資料」</p>
--	---

観点7-1-1-② 達成状況に関する学生・卒業生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育の成果が認められるか。

- 【留意点】**
- (1)の体制の整備が、観点7-1-1-①と同じ体制で実施されている場合には、観点7-1-1-①と同じ資料となる。
 - (2)(3)(4)は、観点1-1-③で分析している種々の評価結果の一部と同一のものであるため、内容の整合性に留意して分析すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■満たしていると判断する
□満たしていると判断しない

自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・卒業生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて学習・教育の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>◇体制の整備状況がわかる資料 資料 7-1-2-(1)-01 「学習・教育の成果を把握・評価する体制フロー図」 令和元年度6月策定の「自己点検・評価体制」に基づき、この観点に関わる体制を策定した。</p> <p>◇意見聴取の結果に関するデータ・資料 (再掲) 資料 1-1-3-(1)-04 「5年生へのアンケートの結果（平成30年度）」 (再掲) 資料 1-1-3-(1)-05 「一定年数後の卒業生へのアンケートの結果(平成28年実施)」</p>
<p>(2) 学生が卒業時に身に付けた学力、資質・能力について、卒業時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。</p> <p>■行っている □行っていない</p>	<p>(再掲) 資料 1-1-3-(1)-04 「5年生へのアンケートの結果（平成30年度）」 (再掲) 資料 1-1-3-(1)-05 「一定年数後の卒業生へのアンケートの結果(平成28年実施)」</p>
<p>(3) 学生が卒業時に身に付けた学力、資質・能力について、</p>	<p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp/</p>

<p>卒業生（卒業後5年程度経った者）に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。</p> <p>■行っている □行っていない</p>	<p>content/uploads/2018/03/h28_2.pdf</p> <p>卒業生へのアンケートは5年に1回を目安としているため、直近の28年度の結果を挙げる。</p> <p>（再掲）資料 1-1-3-(1)-06</p>
<p>(4) 学生が卒業時に身に付けた学力、資質・能力について、進路先関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教育の成果の把握・評価を行っているか。</p> <p>■行っている □行っていない</p>	<p>「就職先企業へのアンケートの結果(平成28年度実施)」 https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2018/03/h28_2.pdf</p> <p>就職先企業へのアンケートは5年に1回を目安としているため、直近の28年度の結果を挙げる。</p>
<p>(5) (2)～(4)の評価結果から学習・教育の成果が認められるか。</p> <p>■認められる □認められない</p>	<p>◇把握・評価の実施状況がわかる資料</p> <p>平成28～30年度のアンケート結果を校長・副校長が確認し、現時点での改善の必要性がないと判断し、全教職員での情報の共有のみを実施した。</p> <p>資料 7-1-2-(5)-01</p> <p>「アンケート結果を教員と共有していることがわかる資料（平成29年度）」</p> <p>資料 7-1-2-(5)-02</p> <p>「アンケート結果を教員と共有していることがわかる資料（平成30年度）」</p> <p>令和元年度は観点 7-1-2 の(1)で挙げた体制により、把握・評価を行う予定である。</p> <p>◆左記(2)～(4)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育の成果が認められることについて、資料を基に記述する。</p> <p>卒業時の5年生に対するアンケートでは、現段階での自分自身の能力についての設問に対し、「リーダーシップ能力」、「意見をまとめる能力」などでやや否定的な意見が多いが、全般的には肯定的な意見が多く、4年生に比べると大部分で肯定的な意見が上回っている。</p> <p>卒業後5年をめどに実施する卒業生アンケートでは、高専での学習が人間形成や実社会で役に立っているかという設問に、8割以上の卒業生が、肯定的な意見であった。</p> <p>同じく5年をめどに実施する企業アンケートでは、企業が新入社員に求める能力で上位に挙げている、「コミュニケーション能力」、「勤勉さ」、「誠実さ」等のアンケート項目が、金沢高専卒業生が企業で評価されている能力の上位項目と一致する部分が多くなっている。</p> <p>これらの状況から、本校の教育は社会のニーズに合った人材育成ができており、学習・教育の成果が認められると判断する。</p>

	<p>(再掲) 資料 1-1-3-(1)-04 「5年生へのアンケートの結果(平成30年度)」</p> <p>(再掲) 資料 1-1-3-(1)-05 「一定年数後の卒業生へのアンケートの結果(平成28年実施)」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2018/03/h28_2.pdf</p> <p>(再掲) 資料 1-1-3-(1)-06 「就職先企業へのアンケートの結果(平成28年度実施)」</p> <p>https://www.ict-kanazawa.ac.jp/wp-content/uploads/2018/03/h28_2.pdf</p>
<p>観点7-1-③ 就職や進学といった卒業後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育の成果が認められるか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第122条 (施)第178条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育の成果が認められるか。</p> <p>■認められる</p> <p>□認められない</p>	<p>◇【別紙様式】卒業生進路実績表</p> <p>資料 7-1-3-(1)-01 「卒業生進路実績表」</p> <p>◆就職率・進学率や就職先等から、養成しようとする人材像にかなった成果が得られているかどうかについて、資料を基に記述する。</p>
<p>(2) 学校として把握している就職先や進学先は、各学科の養成しようとする人材像に適したものとなっているか。</p> <p>■なっている</p> <p>□なっていない</p>	<p>本校の5年間の進路状況は、概ね就職者70%、進学者30%であり、5年間の就職率・進学率ともに100%を維持している。</p> <p>平成30年度進路先の業種は、専門・技術職業が100%である。産業別では、電気電子工学科・機械工学科の進路先は製造業が多く、電気63%、機械89%を占めている。一方、グローバル情報工学科の進路先では情報通信業が58%と多数を占めている。</p> <p>平成30年度の進学先は、併設校の金沢工業大学および豊橋技術科学大学へ編入学しており、関連分野の更なる探究を目指しているものとする。</p> <p>このように、就職率・進学率や就職先等から検証すると、本校が育成する技術者像に相応しいものとなっていると判断する。</p>

国際高等専門学校

	(再掲) 資料 7-1-3-(1)-01 「卒業生進路実績表」
7-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	

基準 7

優れた点
最近5年間、就職および進学希望者に対する就職・進学率はいずれも100%を維持しており、本校が育成する学生が、社会の求める人材像に添うものと判断している。(観点 7-1-3-(1)参照)。
改善を要する点

基準 8 専攻科課程の教育活動の状況

評価の視点

8-1 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われていること。また、専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。

観点 8-1-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。

【留意点】

- 観点 1-2-⑤の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえた授業科目の配置となっているか分析すること。
- 本評価書 I (1) 4. において、特例適用専攻科又は J A B E E 認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する
- 満たしていると判断しない

（根拠理由欄）

満たしていると判断する場合であって、特例適用専攻科又は J A B E E 認定プログラムの認定に係る結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。

なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の項目について分析すること。

自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）

自己点検・評価の根拠資料・説明等欄

(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。

- 配置している
- 配置していない

◇カリキュラム一覧表、授業科目系統図等の授業科目配置状況がわかる資料

観点 8-1-1-② 準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

【留意点】

- 本評価書 I (1) 4. において、特例適用専攻科又は J A B E E 認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する
- 満たしていると判断しない

<p>(根拠理由欄)</p> <p>満たしていると判断する場合であって、特例適用専攻科又はJ A B E E 認定プログラムの認定に係る結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。</p> <p>なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の項目について分析すること。</p>	
自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 専攻科の教育課程は、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 考慮している</p> <p><input type="checkbox"/> 考慮していない</p>	◇連携及び発展等の考慮状況がわかる資料
<p>観点8-1-③ 教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー) に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 本評価書 I (1) 4. において、J A B E E 認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>(根拠理由欄)</p> <p>満たしていると判断する場合であって、J A B E E 認定プログラムの認定に係る結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。</p> <p>なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の各項目について分析すること。</p>	
自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー) に基づき、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 採用されている</p> <p><input type="checkbox"/> 採用されていない</p>	<p>◇授業形態の開講状況 (バランスを含む。) がわかる資料</p> <p>◆授業形態のバランスが適切であることについて、資料を基に記述する。</p>
<p>(2) 教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。(該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p><input type="checkbox"/> 教材の工夫</p> <p><input type="checkbox"/> 少人数教育</p> <p><input type="checkbox"/> 対話・討論型授業</p> <p><input type="checkbox"/> フィールド型授業</p> <p><input type="checkbox"/> 情報機器の活用</p>	<p>◇チェックした項目の実施状況がわかる資料</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>

<input type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮 <input type="checkbox"/> 一般科目と専門科目との連携 <input type="checkbox"/> その他	
観点8-1-④ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教養教育や研究指導が適切に行われているか。	
【留意点】 ○ 教養教育の実施状況や学生の研究指導が、学校教育法上の目的及び学校の教育の目的を達成する上で適切なものであるかどうかを分析すること。 ○ 本評価書Ⅰ(1)4.において、特例適用専攻科について記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。	
関係法令	(法)第119条第2項
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない （根拠理由欄） 満たしていると判断する場合であって、特例適用専攻科の認定に係る結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。 なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の項目について分析すること。	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生への教養教育や研究指導を、適切に行っているか。 <input type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	◇教養教育や研究指導の実施状況がわかる資料
観点8-1-⑤ 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。	
【留意点】 ○ 本評価書Ⅰ(1)4.において、JABEE認定プログラムについて記載した場合は、その評価結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない （根拠理由欄） 満たしていると判断する場合であって、JABEE認定プログラムの認定に係る結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。 なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の各項目について分析すること。	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄

国際高等専門学校

<p>(1) 成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、策定しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 策定している</p> <p><input type="checkbox"/> 策定していない</p>	<p>◇成績評価や単位認定に関する規定等の該当箇所</p>
<p>(2) 成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 行っている</p> <p><input type="checkbox"/> 行っていない</p>	<p>◇成績評価の組織内でのチェック等、成績評価が適切に実施されていることがわかる資料</p>
<p>(3) 1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 把握している</p> <p><input type="checkbox"/> 把握していない</p>	<p>◇学校として把握していることがわかる資料</p>
<p>(4) 成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 周知している</p> <p><input type="checkbox"/> 周知していない</p>	<p>◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料</p>
<p>(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 把握している</p> <p><input type="checkbox"/> 把握していない</p>	<p>◇認知状況がわかる資料</p>
<p>(6) 追試、再試の成績評価方法を定めているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 定めている</p> <p><input type="checkbox"/> 定めていない</p>	<p>◇追試、再試の成績評価の規程等がわかる資料</p>
<p>(7) 成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。</p> <p><input type="checkbox"/> ある</p> <p><input type="checkbox"/> ない</p>	<p>◇成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会の規定等がわかる資料</p>
<p>(8) 成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p><input type="checkbox"/> 成績評価の妥当性の事後チェック</p> <p><input type="checkbox"/> 答案の返却</p> <p><input type="checkbox"/> 模範解答や採点基準の提示</p> <p><input type="checkbox"/> GPAの進級判定への利用</p> <p><input type="checkbox"/> 成績分布のガイドラインの設定</p> <p><input type="checkbox"/> 複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック</p> <p><input type="checkbox"/> 試験問題のレベルが適切であることのチェック</p>	<p>◆実施状況や成績分布を踏まえて、成績評価や単位認定における基準の客観性・厳格性を担保するための措置が、有効に機能しているかどうかについて、資料を基に記述する。</p> <p>◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容を記述する。</p>

<input type="checkbox"/> その他	
観点 8-1-⑥ 修了認定基準が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、修了認定が適切に実施されているか。	
【留意点】 ○ 本評価書 I (1) 4. において、J A B E E 認定プログラムについて記載した場合は、その評価結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。	
関係法令	(法)第 119 条第 2 項
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない （根拠理由欄） 満たしていると判断する場合であって、J A B E E 認定プログラムの認定に係る結果を利用する場合は、当該結果が利用できると判断した根拠理由を記述すること。 なお、利用しない場合は、下記の自己点検・評価結果の各項目について分析すること。	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学則等に、修業年限を 1 年以上と定めているか。 <input type="checkbox"/> 定めている <input type="checkbox"/> 定めていない	◇学則等の該当箇所がわかる資料
(2) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、修了認定基準を定めているか。 <input type="checkbox"/> 定めている <input type="checkbox"/> 定めていない	◇定めている該当規程や修了認定基準
(3) 修了認定基準に基づき、修了認定しているか。 <input type="checkbox"/> 認定している <input type="checkbox"/> 認定していない	◇関係する委員会等の会議資料
(4) 修了認定基準を学生に周知しているか。 <input type="checkbox"/> 周知している <input type="checkbox"/> 周知していない	◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料
(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 <input type="checkbox"/> 把握している <input type="checkbox"/> 把握していない	◇学生の認知状況を把握していることがわかる資料
8-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。 特に専攻科課程の教育課程及び教育方法に関して、準学士課程の 5-1 及び 5-2 の内容を参考に、特記すべき個性や特色等があれば、自由に記入すること。	

該当なし	
評価の視点	
8-2 専攻科課程としての入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切に運用されており、適正な数の入学状況であること。	
観点8-2-① 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。	
【留意点】	
○ 合否判定基準については、提示できるものがあれば、提示すること。自己評価書での提示が不可能な場合は、訪問調査時に提示すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。	
<input type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等）、面接内容、配点・出題方針等）となっているか。 <input type="checkbox"/> なっている <input type="checkbox"/> なっていない	◇入学者選抜要項、面接要領、合否判定基準、入学試験実施状況等がわかる資料
観点8-2-② 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。	
【留意点】なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。	
<input type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備しているか。 <input type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇検証の体制に関する資料 ◇改善に役立てる体制に関する資料
(2) (1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿っているかどうかの検証を行っているか。	◇検証を行っていることがわかる資料

国際高等専門学校

<input type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	
(3) (2)の検証の結果を入学者選抜の改善に役立てているか。 <input type="checkbox"/> 改善に役立てている <input type="checkbox"/> 改善に役立っていない	◆検証の結果に基づいた具体的な改善の実施状況を踏まえて、検証の結果を改善に役立てている状況について、資料を基に記述する。
観点8-2-③ 実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。	
【留意点】 ○ (2)の体制の整備は、必ずしもこの取組のためだけの組織を整備することを求めているのではなく、既存の委員会で対応することとなっている場合には、当該委員会に関する規定の所掌において定員と実入学者数との関係の把握と必要な改善のための取組が明示されていることを分析すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生定員を専攻ごとに学則等で定めているか。 <input type="checkbox"/> 定めている <input type="checkbox"/> 定めていない	◇学則等の該当箇所
(2) 専攻ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備しているか。 <input type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇体制の整備に係る規程等がわかる資料
(3) 過去5年間の専攻ごとの入学定員に対する実入学者数が適正であるか。 <input type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 超過又は不足がある	◇【別紙様式】平均入学定員充足率計算表
(4) 過去5年間で、実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っているか。 <input type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 行っていない <input type="checkbox"/> 過去5年間で大幅に超過、大幅に不足していないので、該当しない	◆大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合には、該当する専攻について、実入学者数の改善に資する取組や教育環境等の改善により教育等に支障が生じないように取った対応等、実際に行った事例がわかる資料を基に記述する。
8-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	

該当なし	
評価の視点 8-3 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育・研究の成果が認められること。	
観点8-3-① 成績評価・修了認定の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	
【留意点】 ○ 学生の成績（修了時のGPA値等。）や修業年限修了率、単位修得率（登録授業単位数に対する修得単位数の率。）等、成果を総合的に分析すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 <input type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇体制の整備状況がわかる資料 ◇成績評価・修了認定等に関するデータ・資料
(2) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価しているか。 <input type="checkbox"/> 把握・評価している <input type="checkbox"/> 把握・評価していない	◇把握・評価の実施状況がわかる資料 ◆左記(2)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育・研究の成果が認められることについて、資料を基に記述する。
(3) (2)の結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。 <input type="checkbox"/> 認められる <input type="checkbox"/> 認められない	
観点8-3-② 達成状況に関する学生・修了生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	
【留意点】 ○ (1)の体制の整備が、観点8-3-①と同じ体制で実施されている場合には観点8-3-①と同じ資料となる。 ○ (2)(3)(4)は、観点1-1-③で分析している種々の評価結果の一部と同一のものであるため、内容の整合性に留意して分析すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・修了生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて、学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 整備している</p> <p><input type="checkbox"/> 整備していない</p>	<p>◇体制の整備状況がわかる資料</p> <p>◇意見聴取の結果に関するデータ・資料</p>
<p>(2) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 行っている</p> <p><input type="checkbox"/> 行っていない</p>	<p>◇把握・評価の実施状況がわかる資料</p> <p>◆左記(2)～(4)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育・研究の成果が認められることについて、資料を基に記述する。</p>
<p>(3) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了生（修了直後でない者）に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 行っている</p> <p><input type="checkbox"/> 行っていない</p>	
<p>(4) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、進路先関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 行っている</p> <p><input type="checkbox"/> 行っていない</p>	
<p>(5) (2)～(4)の評価結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。</p> <p><input type="checkbox"/> 認められる</p> <p><input type="checkbox"/> 認められない</p>	
<p>観点8-3-③ 就職や進学といった修了後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。</p> <p><input type="checkbox"/> 認められる</p> <p><input type="checkbox"/> 認められない</p>	<p>◇【別紙様式】修了者進路実績表</p> <p>◆就職率・進学率や就職先等から、養成しようとする人材像にかなった成果が得られているかどうかについて、資料を基に記述する。</p>
<p>(2) 学校として把握している就職先や進学先は、各専攻</p>	

国際高等専門学校

<p>の養成しようとする人材像に適したものとなっているか。</p> <p><input type="checkbox"/> なっている</p> <p><input type="checkbox"/> なっていない</p>	
<p>観点 8-3-④ 修了生の学位取得状況から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 学位の取得を目的としていない専攻科については、「<input type="checkbox"/> 学位の取得を目的としていないので、該当しない」の欄をチェックすること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する<input type="checkbox"/>欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p> <p><input type="checkbox"/> 学位の取得を目的としていないので、該当しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する<input type="checkbox"/>欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 過去5年間の修了生の学位取得の状況から、学習等の成果が認められるか。</p> <p><input type="checkbox"/> 認められる</p> <p><input type="checkbox"/> 認められない</p>	<p>◇学位取得状況がわかる資料</p>
<p>8-3 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>該当なし</p>	

基準 8

<p>優れた点</p>
<p></p>
<p>改善を要する点</p>
<p></p>